

ISBN4-89563-832-4

C0055 P2980E



9784895638326



1910055029804

定価 2,980円
(本体価格 2,893円)

the GATE I ザ・ゲイト
the GATE I ザ・ゲイト
王国「MU」への扉
CD-ROM & BOOK

the GATE I ザ・ゲイト

王国「MU」への扉 CD-ROM2枚組<Windows & Macintosh>

●バーチャルデジタルカントリー「MU」—インターネット上の架空国家—

■ご使用上の注意

1. パッケージおよび本書の動作環境をよくお読みください。表示されている条件外で使用になられると、正常に動作しない場合があります。
2. NEC98シリーズの一部の機種では、動作しない場合があります。
3. ビデオボードやグラフィックドライバなどの関係上、一部正しく動作しない場合があります。
4. お客様のご使用になられている機器構成やソフトウェアの組み合わせによっては、起動できなかったり、動作中にエラーがおきたりする場合があります。
5. 動作中は、特に画面の指示がない場合CD-ROMを取り出さないでください。
6. このディスクはパソコン用のCD-ROMであり、音楽CDではありません。絶対に一般オーディオ用CDプレーヤーでは再生しないでください。大音量によってスピーカーを破損する恐れがあります。また、ヘッドホンをご使用になる場合、耳に障害を被ったりします。

■ハイブリッド版CD-ROM "the GATE"

*ハイブリッド版とは、Windows系、Macintosh系の両方のコンピュータで見ることができるCD-ROMのことです。

[CD-ROM]CD-ROM for Hybrid

■再生に必要なハードウェア

CD-ROM for Windows

●本体: i486/33MHz以上のCPUを持つもの。●システムソフトウェア: MS-DOS 6.2/MS-Windows 3.1またはWindows 95/QuickTime 2.0 for Windows (お持ちでない方は本CD-ROMに収録されています)が必要。●メモリ: 実装8MB以上。●ディスプレイ: 640X480ドット256色表示。●サウンドボード: Sound Blaster 相当。●その他: マウス/CD-ROMドライブ (倍速以上を推奨)。

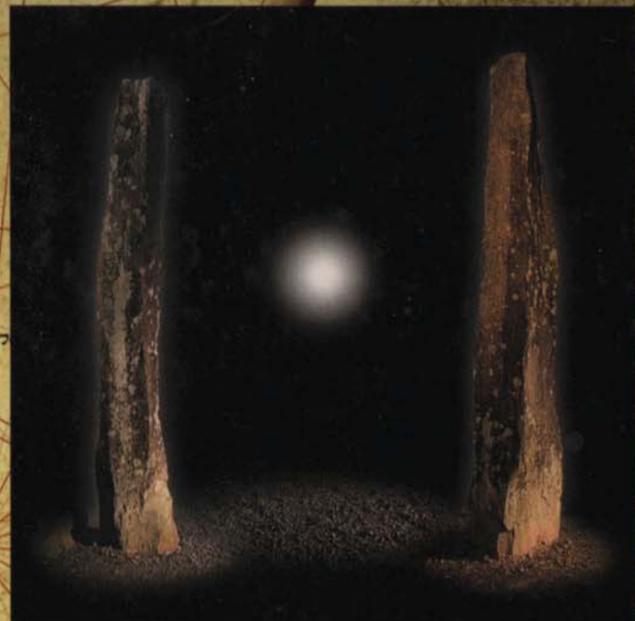
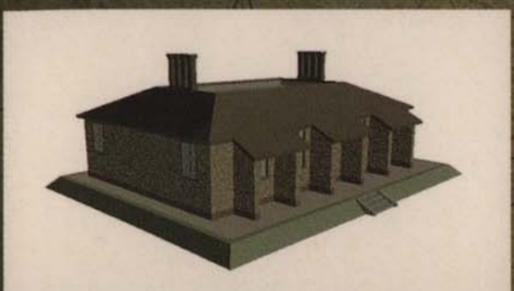
CD-ROM for Macintosh

●本体: 68030/16MHz以上のCPUを持つもの。68LC040/25MHz (LC475) 以上を推奨●システムソフトウェア: 漢字Talk 7.1以上。●メモリ: 5MB以上の空きメモリ。●ディスプレイ: 13インチ、256色を表示可能なもの。●CD-ROMドライブ: 倍速読み出しが可能なものを推奨。●QuickTime 1.6.1以上が必要。●Sound Manager 3.0以上が必要。

Manufacturing & Copyright: Force co., Ltd. / 情報処理振興事業協会
WARNING: All Rights Reserved. Unauthorized duplication is violation of applicable laws.

このソフトウェアは一般家庭内における私的な再生に限って販売されています。従って著作権者および出版権者への書面による許可無く、レンタル、複製、放送、有線送信、上映などに使用することを禁止致します。

CD-ROMは精密機器です。高温、多湿、直射日光の当たった場所にはおかないで下さい。MS-Windowsは米国マイクロソフト社の、Macintosh、QuickTimeは米国アップルコンピュータ社、Directorは米国マクロメディア社の登録商標です。その他記載されている製品名、会社名、ロゴマークは登録商標または商標です。



the GATEそれは、王国「MU」への唯一の扉

海外旅行気分での「MU」王国内をウオカスルー

the GATEそれは、未知のコミュニケーションへの法

CD-ROMとインターネットを使った「MU」国民とのコミュニケーション。さらに、あなたも国民になれる

the GATEそれは、歴史ミステリーの鍵

「MU」王国には驚くべき真実が隠されていた

the GATEそれは、インターネットアクセスへの門

インターネット接続環境があればインターネットへ簡単接続



毎日コミュニケーションズ

the GATE

ザ・ゲイト

I

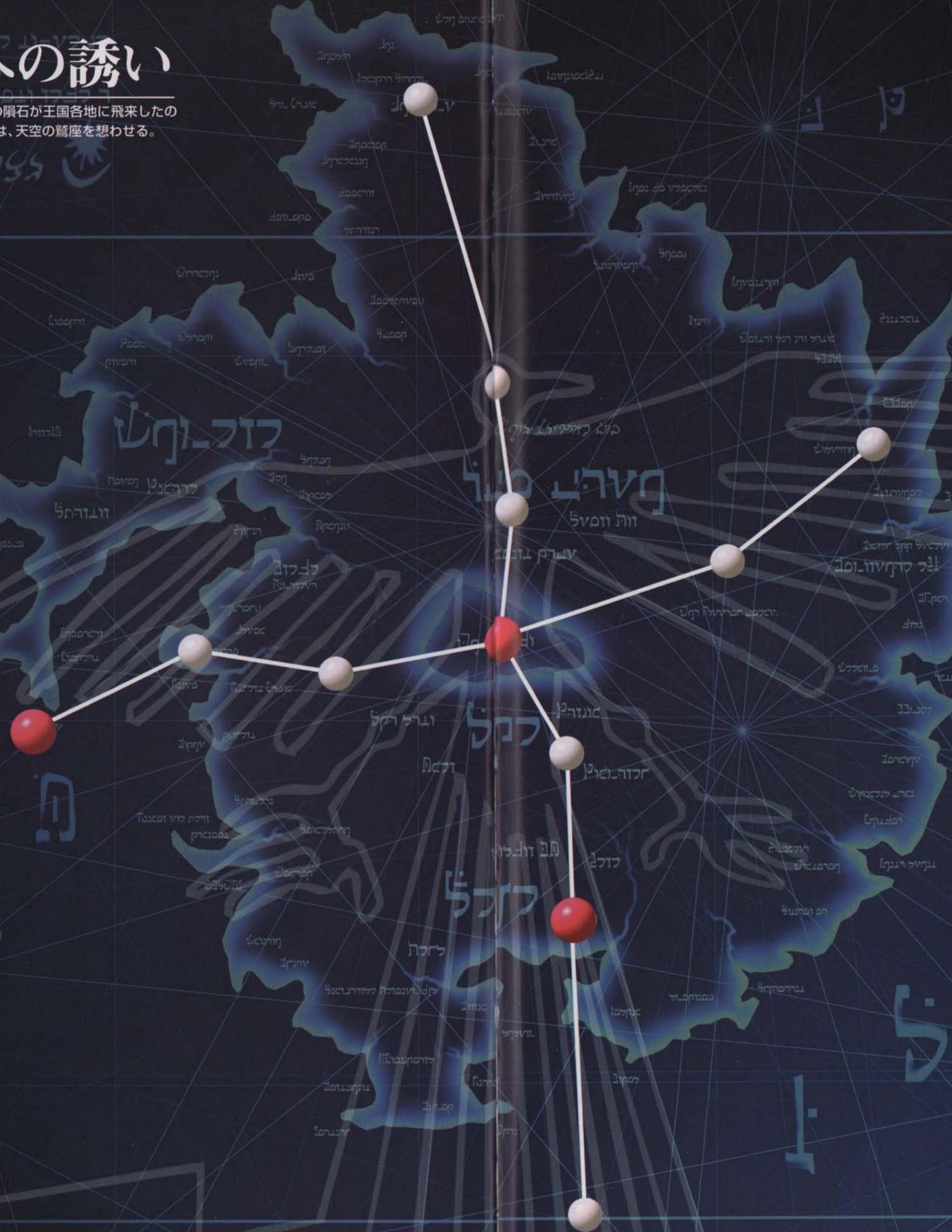
— 王国「MU」への扉 —



「MU」はデジタルワールドに存在する王国
the GATE それは王国「MU」への唯一の門
「MU」で行われるさまざまなコミュニケーションへの扉
時間と空間の迷宮への入口
あなたをデジタルワールドへの旅へ誘います。

歴史ミステリーへの誘い

MU考古学会では、現存の遺跡の発掘調査等から太古に12の隕石が王国各地に飛来したのではないかと学説が有力視されている。隕石の飛来場所は、天空の鷲座を想わせる。



「MU」王国 王家の紋章

空を羽ばたく鷲を表し、鷲の中心とまわりを円形に取り囲む文字は古代MU文字で国家建設に必要な知恵と力を意味する。



王 王位を意味する。 法 法律を意味する。 建 建設を意味する。



勞 労役を意味する。 商 通商を意味する。 經 経済を意味する。



涉 外交を意味する。 産 産業を意味する。 郵 通信を意味する。



医 厚生を意味する。 武 武力を意味する。 知 文化を意味する。

Apa

אפא

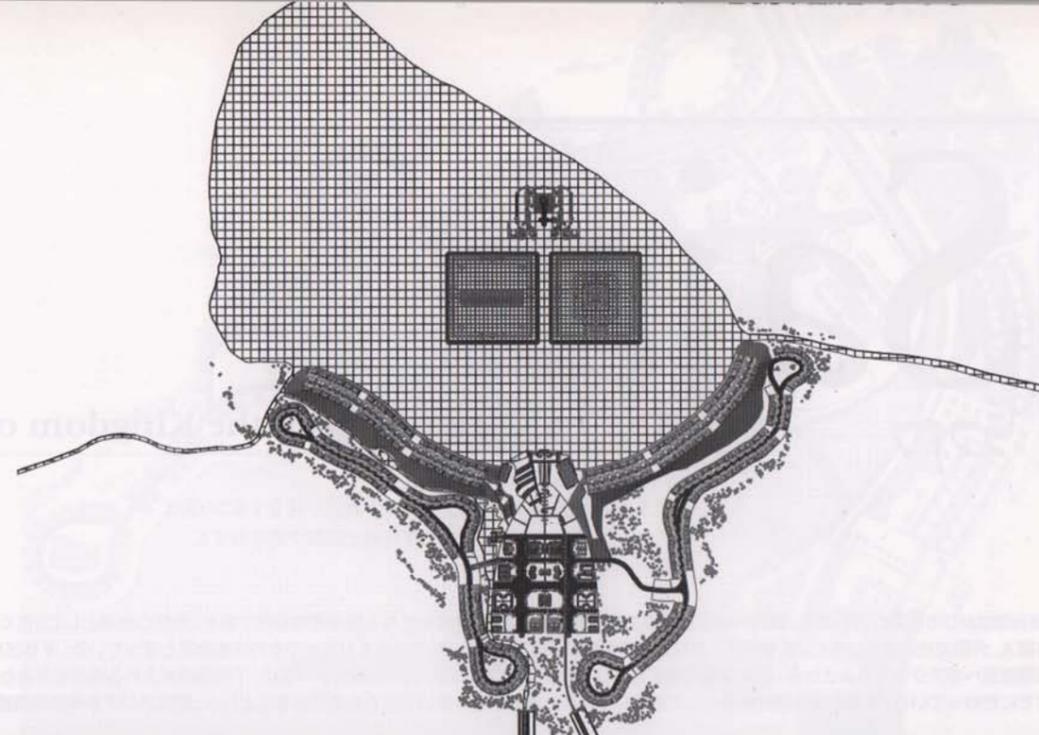
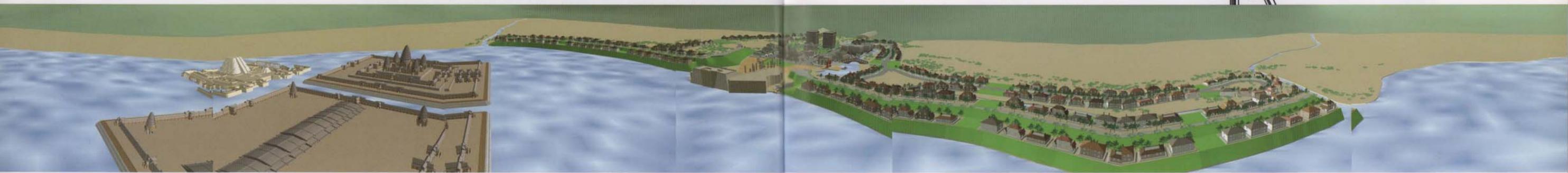
The Capital in the Kingdom of MU

「MU」王国の第一都市

王国の政治、経済、文化の中心をなす。

また、王宮と神殿があり、Apa王家や国民の祭事が数多く催される。

Apa市は、MUの政治を司る官庁街である。そのため、国内民間企業の本社および日本などの大小多くの外国企業が出先機関を開設しており、各企業では盛んな情報発信が行われ、多様な経済活動が営まれている。Apa市には国民が神聖視する湖があり、湖の中心に位置する中島には、現国王ラ・ムング・プリハットカン王が住む王宮と太古に建立されたとされる神殿がある。王国の祭事には王国中から国民が集まり、王宮と神殿を中心にパレードが繰り広げられ相当な盛り上がりを見せる。また、国王が文化振興に力を入れていることから、国立博物館、国会図書館、国立美術館などの王国の文化インフラもこの都市に集中している。



官庁街

「MU」王国は、王国といえど王は「君臨すれど統治せず」を基本姿勢とし象徴として存在し、国家運営は議会制民主主義を基本とする非常に民主主義的な国家体制である。各省庁は、国民とのコミュニケーションを大切に民意を政治に最大限に反映するよう努力している。そのため「MU」王国では、国民や企業に行政情報を頻りに発信している。発信情報はインターネットを介し、直接国民や企業に届けられ、国民と省庁との意見交換が可能な仕組みを構築している。国王と国民のコミュニケーションもその例にもれず、国王は国民の意識や生活をよく理解している。また、外国とのコミュニケーションも盛んに行われている。各省庁舎、役所は外国人旅行者にも、永住権取得、美術館催事募集等のさまざまな情報を発信している。政府は旅行者に対して、入国したら必ず各省庁舎、役所を訪問することをすすめている。



合同省舎

各省のオフィスから多数の情報が発信されている。

王国文化

「MU」王国の伝統文化の保存と新文化の育成に対する姿勢は世界でも群を抜くもので、文化庁が中心となり幅広い文化育成を活発に展開している。文化施設も広く民間に開放され、史学・考古学から美術・音楽・芸能に至るまで、国内外の幅広いジャンルの文化を国民が享受できるシステムを構築している。また、王国はメインカルチャーだけでなく、サブカルチャー育成への助力も怠らず、活力のある若者文化がいきいきと展開されている。



国立博物館

王国の歴史の重みを感じさせる展示物には目を見張る。国立博物館は、代々の国王の注力により、王国の考古学、神話研究の核として豊富な文献と調査報告書を誇り、海外各国の史学・考古学調査機関との交流も盛んである。

神殿

神殿は国民が神聖視する湖の中心にある中島に、王宮と共にそびえている。この水上神殿は小さな岩石を積み上げて建造されており、形状は俯瞰するとほぼ正方形になっている。この神殿は古代国民の信仰の象徴であったとされており、「MU」王国の神話にもたびたび登場する。神殿へのアクセスは、陸路はなく船によるしかない。神殿内部は入り組んでおり、拝殿の奥には大きな扉がある。この扉は年に一度の祭事の時のみ開かれるとされている。この神殿にまつわるミステリーは多く、神殿の地下に迷宮があるという謎めいた話が、国民の間で語りつがれており、ミステリーロマンを求める民間研究家が不法侵入し、警察に逮捕される事件が頻発している。



湖対岸より神殿を望む

荘厳なシルエットに、長い歴史ロマンを彷彿とさせる。



王宮

王宮は、湖の中島に神殿の参道をさき左右に建造されている。正面から向かって右側が王族が住む宮殿、左側が王の執務室と謁見の間、迎賓館となっている。外国人の王宮への入館には、外務省および宮内庁の許可を必要とする。



合同庁舎

省舎同様、各庁オフィスから多数の情報が発信されている。



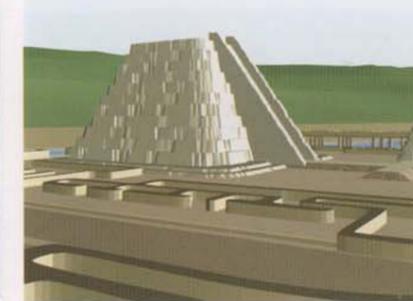
国会図書館

「MU」王国の現状を知るには欠かせない機関となっている。現在蔵書整理中のため休館中。



国立美術館

現国王が王国文化振興のために私費を投じて建設した美術館。中世美術から、現代アートまで幅広い分野の展覧会が開催されている。現在、現代アート展を開催中。



神殿の中は、入り組んでおり神秘的なペールに包まれている。



神殿俯瞰図

形状はほぼ正方形。

Saja

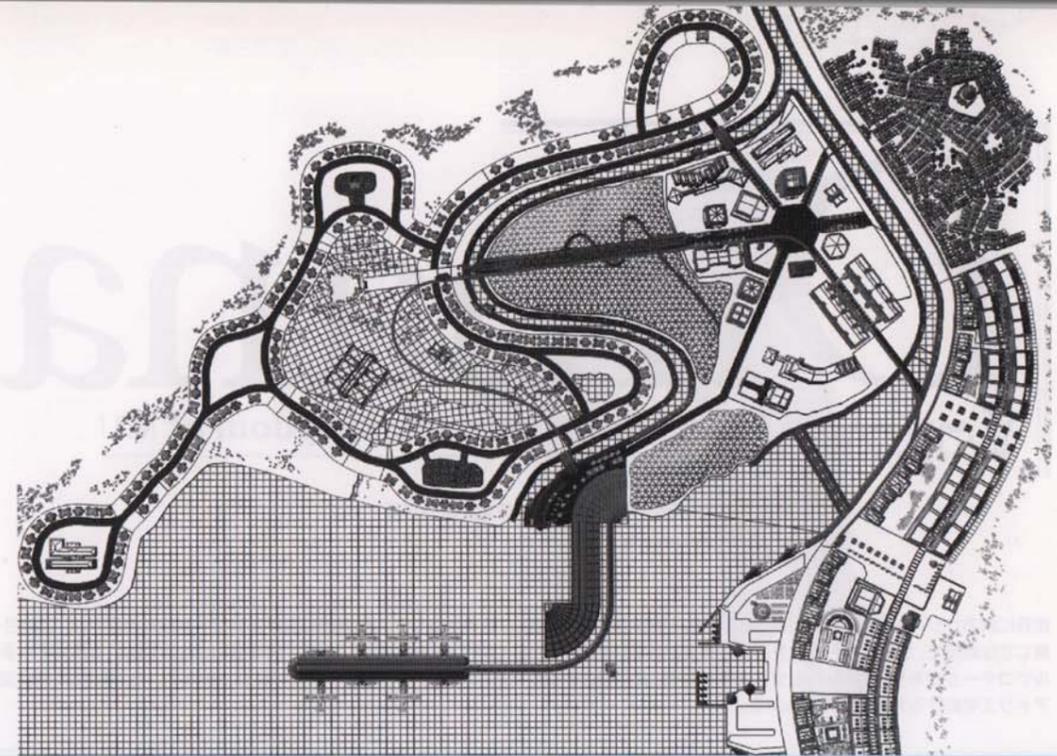
サジャ

The 2nd largest city in the Kingdom of MU

「MU」王国の国際商業都市

企業ビル、商業施設やアミューズメント施設が林立するこの街は、古くから港町として栄え、今では貿易港と国際空港を有する、経済の中心地である。

Saja市はMUの玄関口でもある。海外への空と海の玄関口であり、MUの経済を支える国際商業都市である。天然の良港として、古くから交易の場であったため、外国人、外国文化の流入は多く、エキゾチックな雰囲気をかもし出している。新市街地キリ区が中心的商業地区となっている。キリ区は古い港町を再開発した街で国際空港へのアクセスのよさから、近年国際商業都市として発展を遂げている。旧市街地カナン区は、下町情緒あふれる商店街があり、買い物客や観光客で夜遅くまでにぎわっている。マナ区は港湾労働者として移住してきた外国人が住み着いてきた街であることから、東南アジアや中東の情緒が感じられる。



旧市街

港からの運河に面した旧市街地カナン区では、いまでも海外の商品取引が盛んである。道路は石畳で、コロニアルスタイルの洋館が多く建ち並びヨーロッパ文化の影響の強さが感じられる。運河のほとりを港に向かって進み、左手の倉庫街をぬけると商店街が現れる。この商店街は、古くから港湾労働者であふれた歓楽街で、さまざまな港のドラマを生んできたが今は港町情緒あふれる商店街としてにぎわっている。この商店街のレストランで味わえる本場MU料理は逸品で、観光客の人気スポットのひとつになっている。



MU料理

魚介類をふんだんに使ったMU料理は一度食べたら忘れられない味になる。



商店街

輸入雑貨、ブティック、ケーキ屋、レストラン、BARなどおしゃれな店が立ち並び、港情緒あふれる商店街。

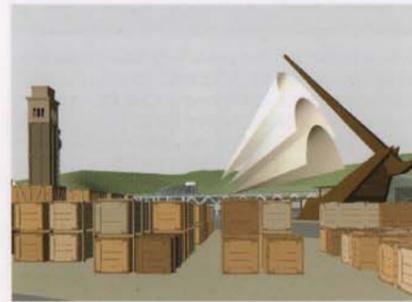
MUの海外からの玄関口

「MU」王国には、海外からの空の玄関口としてSaja国際空港、海の玄関口としてSaja港がある。それぞれにMUの経済上重要な役割を持ち、それ故にSaja市は国際経済都市として発展を遂げている。Saja国際空港は国土面積の制約から海上空港となっている。この空港ではジェット機による事故が多発するため、プロペラ機の発着しか許可されていない。事故の原因はMU上空の強力な磁場の乱れが引き起こす計器の故障と考えられているが、原因の詳細は現在MU航空宇宙局が調査中であるが難行している模様である。このことから、Saja空港からの発着はプロペラ水上旅客機のみということになる。Saja港は、MUの貿易物資輸送の要として、モノの玄関口の役割を担っている。Saja港の歴史は古く「MU」王国が多様な異国文化を吸収していることから、文化の玄関口としての役割も大きいといえる。また、最近このウォーターフロントの2つの玄関口は、若者のデートスポットとしても人気を集めている。



Saja国際空港

世界でもまれな海上空港。ジェット機の乗り入れが許可されるのはいつのことだろう。



Saja港

貿易の要として長い歴史をもつ。



デートスポット

この場所からのビューは、来るもの目を引きつけてはならない。

スラム

MUにもスラムは存在する。Saja市の北側に位置するマナ区がそれにあたる。この地区は、Saja港の港湾労働者として移住してきた外国人が住み着いて発展した街で、いまではスラム化がかなりすすんでいる。市場では東南アジアや中東の物品や食材が売られている。このマナ地区は犯罪発生率も高く、MU国民もあまり足を向けないが、ここでしか購入できない食材や商品、他では体験できない異国情緒もありガードマンつきでマナでの買い物を楽しむ物好きな金持ちも最近では増えている。外国人が住み着く前はMU原住民が多く暮らしていた地区で、未だにMU古来の神秘的な呪術や占い伝承されている。原住民の間には神秘的な物語も多く「MU」王国の神話との関わりが非常に強いと考えられ、王立博物館の調査員が調査にあたるが、治安が悪いためか調査中に消息を絶つことが少なくないため現在は中止している。



スラム化が進むマナ区

MU原住民が住んだ古い街並みも今では荒涼としている。



MU原住民の占い師

不思議な呪術や占いを伝承している。占いはよく当たるといわれている。



Dimana

דִּמָּנָה

The resort city in the Kingdom of MU

楽園を体験できる街。
世界でもっとも美しいとされる珊瑚礁と純白のビーチは
訪れる者の心を魅了する。

世界に誇るリゾートシティDimana市。「MU」王国の西側に位置し、穏やかなリアス式海岸に広がるリゾート地である。サンゴの白く輝くビーチから見る夕日の美しさは絶品で、サンセットビーチとして有名である。紺碧の海と白く輝くビーチに魅了されて、幾度もDimanaを訪れる観光客も多い。海岸沿いにリゾートホテルやコテージがあり、ここからも夕日を楽しめる。また街の中心には民芸品や土産物を売る商店が軒をたなびている。最近では、滞在型リゾートの客が増えており、アトリエを設けるアーティストもいる。



滞在

Dimanaでの滞在は、リゾートホテルかコテージの利用となる。特にコテージは、南国独特の雰囲気を体験でき、新婚旅行には特におすすめできる。ここで味わえる南国料理は絶品で、海の幸と豚肉と香辛料をふんだんに使ったものは日本人の口にも合うはずである。MUでは生魚を食べる習慣があり、色とりどりの熱帯魚の刺身を賞味できる。刺身用の醤油はご持参いただきたい。また、グループ旅行の方で勇気のある方は子豚の丸焼きをご賞味いただきたい、豚肉への思いもわかるはずである。



コテージ

思い出の夜は、このコテージから始まります。



リゾートホテル

ホテルからのオーシャンビューは、幾度見ても飽きることを知らない。

リゾートライフ

リゾート施設も豊富で、いろいろなマリンスポーツが楽しめる。滞在型リゾートが増えていることから、コンドミニアムや別荘の販売も始まっている。日本のアーティスト鈴木英人氏は、ここDimanaにアトリエ兼別荘をお持ちである。すばらしい自然環境が、新しい創作活動の原動力になると話しておられる。今後アーティストの別荘が増えることが考えられるが、新しい「MU」王国の文化の発信地になればうれしい限りである。鈴木氏はアトリエを公開されているので、観光客の方は、ぜひご訪問いただきたい。



ヨットハーバー

映画「太陽がいっぱい」の1シーンが思い出される。



ヨット

マリフレジャーの基本はやはりヨット。



鈴木英人氏アトリエ

MUがモチーフの絵も期待できる。

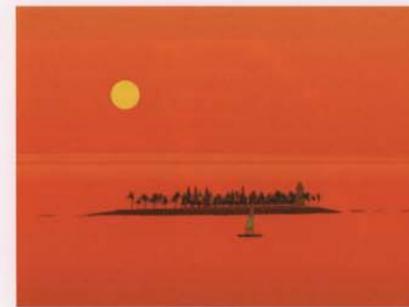
海上神殿

美しい海岸からは、湾の対岸の岬の先端にそびえる神殿を見ることができる。この神殿は古代の海の神を奉ったといわれており、現在は海の交易の安全を守る神として国民からの信仰を集めている。ビーチから見る夕日と神殿が重なる時の光景の美しさはすばらしく、この美しい風景を見るために多くの人々が夕暮れにビーチを散策している。この神殿へは干潮時のみ渡ることができるが、満潮時にも人影を見ることがある。船で渡ったといわれているが、まわりに船がないことも多いようだ。干潮時に渡って風景の美しさに時を忘れ、取り残されたのだろうか。ただ、気になることは、その人影は突然現れ、忽然と消えるという。また、神殿の近くではコンパスが利かなくなることも知られている。



海上神殿

海の交易の神を奉っているとされている。



オーシャンビュー

心洗われる思いに涙する人もある。



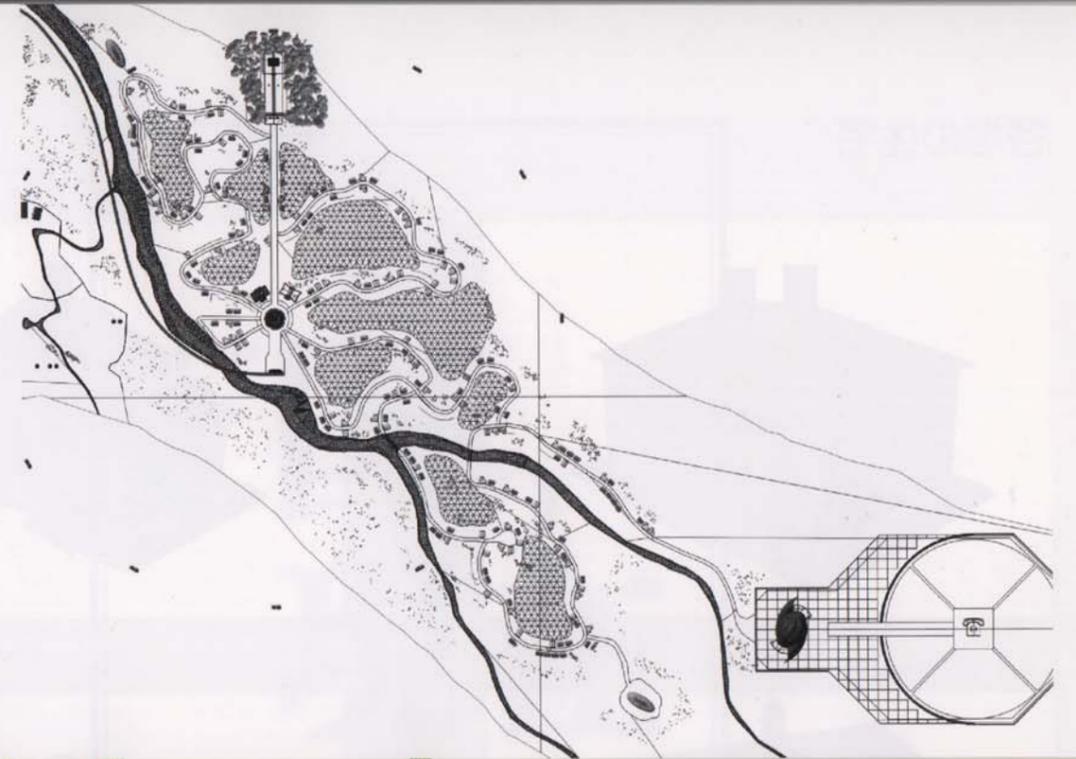
Eco

מלך

The conceptual city in the Kingdom of MU

Ecoというコンセプトのもと、自然派志向の生き方を求める者が集う街。

ほんの20年ほど前、この街のあたりには農家しか無くティンギーという村であった。ティンギーとは古代MU語で「高い」と言う意味である。1970年代ウッドストックのころから自然派志向のヒッピーが住みはじめ、環境保護派を筆頭に、ミュージシャン、アーティスト、作家やネイティブ派の人たちが移り住み、この村を「エコ・シティ」と呼ぶようになった。Eco cityの中心にあるストーンヘンジでは、グラスストンベリーの様なコンサートが行われている。また、物理学や宇宙科学などの自然科学を中心とした研究所がEco cityの東側に建設されている。



ストーンヘンジ

ストーンヘンジはEco cityの中心に小さなものがひとつ、街を取り囲むように大きいものがひとつ発見されている。ストーンヘンジは天文学と関係の深い遺跡であるとされることから、「MU」王国の神話にある「神が宇宙から来た」という解釈の記述と深い関係があると考えられている。



ストーンヘンジ(小)
Eco cityの中心に小さいものが1つ



ストーンヘンジ(大)
Eco cityを取り囲むように大きいものが1つ

地上絵

マカル山の山原にかかれた地上絵も、やはり「MU」王国の神話と深い関わりを持つと考えられている。マカル山は古代信仰の霊山であることから、この街はその首神域であったと思われる。ストーンヘンジ同様天文学に関連する遺跡である。しかし、この絵を何の目的で、誰に見せるために描かれたかは、神話をたどっても答えを導き出すことはできない。マカル山にも現在は自然派志向を象徴するように風力発電所が建設され、安全でクリーンなエネルギーを生産している。



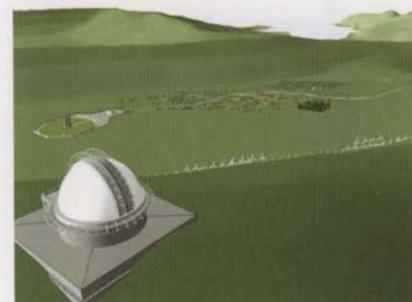
地上絵
この絵の意味するところは、未だ考古学上の謎である。

航空宇宙局

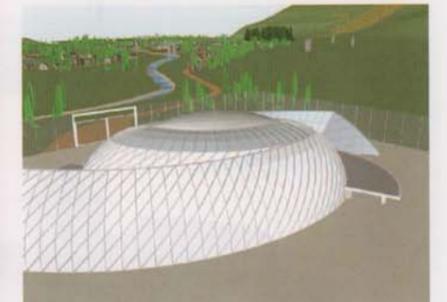
自然科学系の研究機関および施設は、国家政策でEco cityの東側に集約され学術研究都市の様相を呈している。医学、物理学、化学等の研究機関がずらりと並ぶこの地域は、「MU」王国の頭脳といってもいいだろう。その学術研究都市の中でもっとも巨大な施設が航空宇宙局である。ロケット発射台をもち、巨大な研究棟を持つこの機関は現在「MU」王国へのジェット旅客機の導入のための調査、新型航空機の研究開発、「MU」王国専用人工衛星の開発などを行っている。海外との情報交換、頭脳輸出入も盛んに行われている。



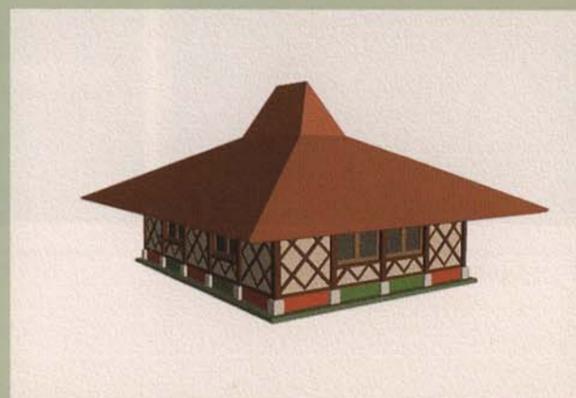
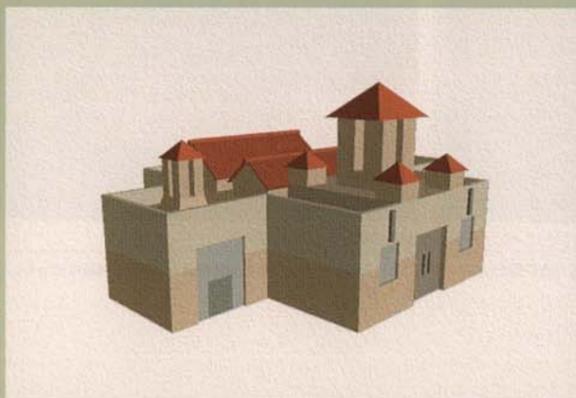
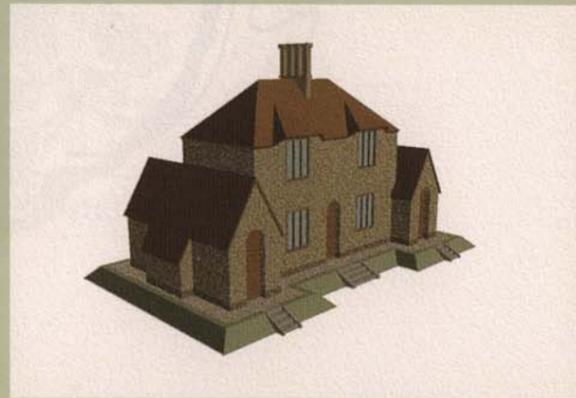
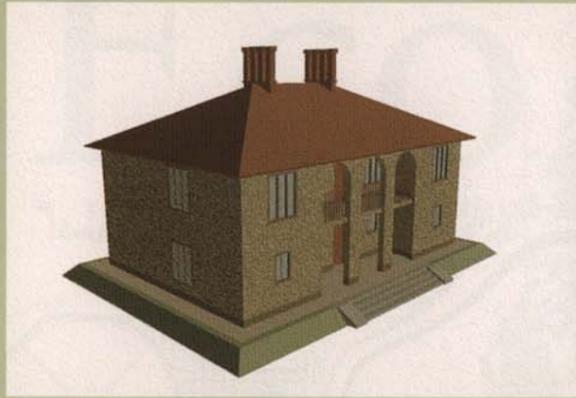
霊山マカル山
古代信仰では霊山とされたが、今では風力発電のプロペラがクリーンなエネルギーを生み出している。



ロケット発射台
観測用衛星の発射準備が着々と進んでいる。



航空宇宙局付属研究所
「MU」王国へのジェット旅客機の導入のための調査を行っているが、難行している。



王国の現在

The present Kingdom of MU



国土

Country

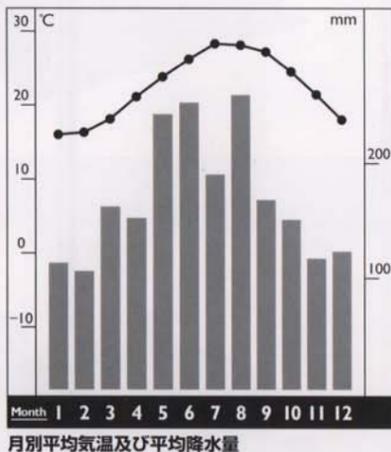
北緯30°東経165°に位置する島国「MU」は、(位置的には屋久島の少し南側あたり)、国土面積は約319km²(南北約20km、東西約18km)で佐渡ヶ島の約1/3。太古の昔、この島国はかなり大きな大陸の山脈の頂上部分(標高約4,000m)であったらしい。約7,000年ほど前に、火山の大爆発(推定)にともなう自然条件の変化により大々的な沈下が起こり、大陸のほとんどが太平洋の海底に沈み、現在の島の形になったという説が有力である。よって、島の土壌はほとんどが花崗岩で形成されている。島のほぼ中心部には死火山の巨大なカルデラがあり、現在ではカルデラ湖になっている。島の南部の入り江からカルデラ湖につながる水路があり、この水路のカルデラ湖の入り口付近を中心として首府が形成されている。島の周りを大珊瑚礁がとりまき、島の東西と南部には良質のビーチがある。ビーチの砂は珊瑚からなる白砂で美しいホワイトビーチが広がっている。島の南部は、天然の良港として古くから港町として栄え、島の北部は切り立った岸壁で北からの波が強く打ち寄せる。島の北東には標高600mの山々があり、冬には山の頂に雪が見られることがある。



気候

Climate

気候は国土の位置関係から亜熱帯気候と温帯気候の双方の特性を合わせ持つ。都市部や海岸付近の低地では、夏季には最高気温が摂氏38度に達し真夏日が90日ほど続き、冬季には最低気温が摂氏10度となる亜熱帯気候である。北東部の高地では冬期には摂氏0度以下になる温帯気候である。標高約800mの山々では年に2・3度雪が降る。雨期は5~6月で、8~9月は台風がしばしば国土を直撃する。



国旗

Flag

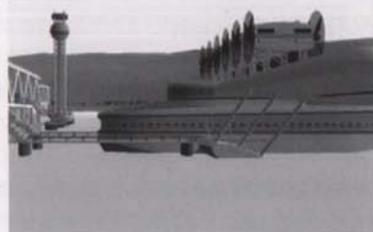
「MU」王国の国旗は、この国の神話や伝承文化を基本にデザインされている。「MU」王国では、空の青は純粋を表す色とされ、学校の制服などでよく使われる色である。雲の白は神の色、神聖な色とされて、冠婚葬祭の時の礼服には白が使われる。国名「MU」は太陽を意味し、太陽の子の王を意味する。月は潮の満干と深く関係していることから絶え間ない時の流れを意味し、月の満ち欠けは繁栄を意味することから、進化の象徴とされた。これらのことから、「王国は神の意思の下、純粋な繁栄を遂げること」への祈りを込めて「MU」王国の国旗は、神の色「白」に王国の象徴「太陽」と進化の象徴「月」が、純粋の色「青」の中央に位置されている。



入国

Immigration

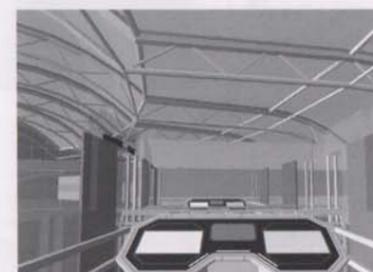
「MU」王国への、外国人観光客の訪問は、飛行機による入国に限られる。Saja国際空港は、ジェット機による事故が多発するため、プロペラ機の発着しか許可されていない。事故の原因はMU上空の強力な磁場の乱れが引き起こす計器の故障と考えられている。原因の詳細は現在MU航空宇宙局が調査中だが難行している模様である。



また、滑走路が距離的問題で建設できないため、国際空港としては珍しいプロペラ水上飛行機専用の空港となっている。飛行機で海上から見る空港はとても美しく、室内植物園のような外観は、大きなガラスの城といった感じだ。飛行機は水上空港だけに、大型フェリーをつなぐボンツーンのように見える離発着所に停まる。飛行機のハッチが開くと、ムッとするほどの塩の香りが機内を包み込む。機外は暑くもなく寒くもなくといったところ。

入国審査

離発着所からモノレールに乗って、空港の出入国ロビーへ向かう。ロビーまで空港内を走るモノレールの窓越しに美しい海と港が見える。モノレールが出入国ロビーに着くと、まずイミグレーションカウンター(出入国管理カウンター)へ向かう。この国の出入国審査はイミグレーションカウンターのコンピュータで名前・国籍等を入力し、数秒の審査の後、入国IDが発行され入国可能となる。再入国の場合は、既得の入国IDナンバーを入力するか、再度名



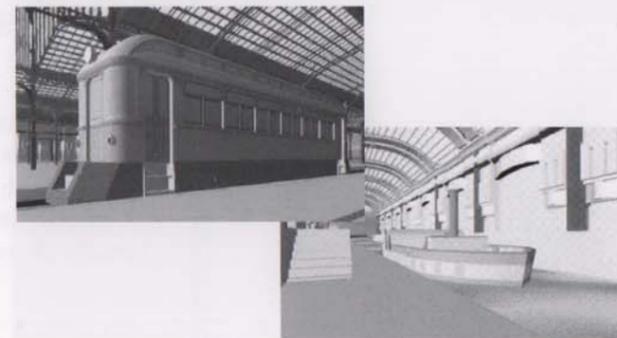
前・国籍等を入力することにより入国許可となる。このコンピュータは外務省入国管理局および警察庁とオンライン接続されている。入国IDが偽造であるか本人で無い場合は、即刻入国監視委員と警察によって強制送還される。再入国の場合、入力ミスによっても強制送還になる場合があるので注意していただきたい。

空港ロビー

入国審査を済ませ空港のロビーに出ると国営のインフォメーションカウンターがある。このカウンターでこの国の地図や観光案内などの情報を得ることができる。

空港の外

入国手続が済み空港の外に出ると、空港に隣接して路面電車の駅と水上バス乗り場がある。自動車の利用になれている日本人の方がタクシー乗り場を探している光景をよく見かけるが、この国には法律で公用車両・緊急車両以外の自動車の利用が禁止されているため、いくら探しても無駄なことである。各地への移動は路面電車か水上バスのみということになる。



交通機関

Traffic System

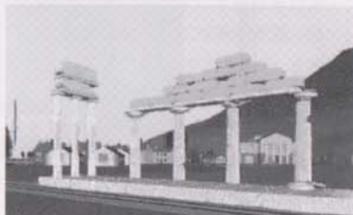
この国を訪れてまず気づくことは、自動車を見かけないことだ。「MU」王国では、環境保全と事故防止のため法律で公用車両・緊急車両以外の自動車の利用が禁止されている。現状の国の交通手段は、路面電車および水上バスの二種類。自動車の利用に慣れている国の旅行者には非常に不便に感じられるかもしれないが、慣れれば結構旅情を盛り上げてくれるいいものである。それぞれの街では、街自体も小さく古いため道が細く曲がりくねっており徒歩での移動の他は方法がない。

路面電車

この路面電車は開通以来70年間、車両を変更をしていないノスタルジックな乗り物である。国内の自然の中を走る路面電車は、風景にとけ込み独特の風景を作り出している。



どの街の路面電車の駅も古代遺跡がホームになっている。歴史好きの旅行者にはこたえられない趣向である。

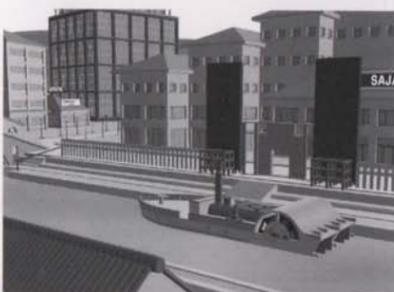


路面電車は、ターミナル駅を中心に、国内に放射状に広がっている。路面電車はすべてこのターミナル駅での乗り換えとなる。ターミナル駅は、ヨーロッパの鉄道の駅を彷彿とさせる作りである。



水上バス

水上バスは、国際空港のあるSaja市と首府Apa市を結ぶ交通機関である。Saja市街地を流れるミンゲー川を上流へ登り、首府Apa市まで風景を楽しみながらのんびりと数分の船旅を楽しむ。



国民

Nation

この国の原住民はサモア系とモンゴロイド系が混じった人種である。太平洋諸島へ人類が進出を始めたのが今から約2万5,000年前。そして約5,000年前、旧モンゴロイド系が進出を始めたとされている。旧モンゴロイドは歴史的に早くから地球上に広く分布していて、海洋術もすぐれていたため、日本や韓国などと同様に旧モンゴロイドの骨と思われる化石がMUの遺跡から見つかっている。そして約2,500年前にサモア系人種が進出し、その多くが混血して現在に至っている。現在の国民の70%は太平洋モンゴリアンで日本人やアメリカインディアンに似ている。10%はヨーロッパ系白人との混血で、残りの20%は入植者である。国民の気質は、南国らしく明るくおおらかであるが、男性は勇猛果敢な戦士の気概を持つため、太平洋戦争で国を守るために戦いほとんどが戦死してしまった。そのため、一時は国民数が1,325人と非常に少なくなってしまった。現在の人口も5,236人と非常に少ない。文化やしきたりを大切に国民性により、諸外国であれば滅んでしまっているような織物や染め物などの伝統工芸技術や料理、音楽や舞踏、占いや呪術に至るまで原住民たちは独自の文化を大切に伝承している。近年、王国政府は原住民の文化を国の財産とし保護政策をとっている。伝統工芸や音楽は、外国のアーティストにも人気が高く、MUに永住し活動をするアーティストも増えている。

動植物の 植生と生息

Ecology

植物は土地の標高によって植生が異なっている。南部、東部の低地では亜熱帯気候であるため、東南アジアによく見られる植物が点在している。島の北東部の山間部では日本の屋久島の植生のように落葉樹や針葉樹が広く分布し、太古の日本の森を彷彿とさせる。動物も土地の標高差によって起こる気候差によってその生息も地域によって異なる。亜熱帯気候の東部南部には亜熱帯気候の鳥類が多く分布している。そして、その鳥類を餌とする猛禽類や猫型の小猛獣などもある。亜熱帯気候特有のタイやインドネシアなどにも生息している手長猿をはじめ、吠え猿の一種なども生息している。標高400mから800mにかけて分布しているのが、この島にしか生息しない猛獣、大型の猫科動物「クロスタイガー」である。「クロスタイガー」の名前は、額の真ん中に十字の紋章を持っていることに由来する。この猛獣は、近年100年ほどの間、年間1、2例の発見報告しかなく、それも確証を欠くものが多いため、幻の動物となっている。「クロスタイガー」は、日本の狍犬のような神聖な動物として、古くは古代壁画や神殿の彫刻に登場する。実物は、雄で体長3m、体重は1tを越す巨体で、ベンガルドラによく似ているが、体の模様は気候によって異なり、雪の多い所では白地に黒の小さな斑点模様となり、ジャングルではベンガルドラのように金色地に黒の小さな斑点模様となる。この猛獣は国の重要保護動物で国獣であり国のシンボルとされている。その他にも、国民の間でその存在が伝承されている、巨大動物も数種類存在する。たまたま、森へ入ってその影を目撃した旅行者の報告等はあるが、その存在は確認されていない。観光客の方は、森林に足を踏み入れる際は、ご注意願いたい。



文化

Culture

島国であるため耕地は狭く、人口の増加に伴い海外の物資を受け入れねばならなかった。そのため、海外交易は古くから盛んで、物資と共に多種多様な文化が流入してきている。特に大航海時代に流入したヨーロッパ文化の影響が大きく、街にはコロニアルスタイル(17~18世紀にイギリス、スペイン、オランダなどの植民地に発達した建築様式)の古い建築物が目立つ。この国固有の文化は、慣習やしきたりを大切に国民性のおかげで、諸外国であれば滅んでしまっているような織物や染め物、文様などの伝統工芸技術や料理、絵画、音楽や舞踏などの芸術、医術や天文術のような学術、武術や占いや呪術などの儀式に至るまで、原住民によって独自の文化を大切に伝承されている。MU固有の文化は、どれもすばらしく古代人が考え出したものとは思えないものが多い。染め物や文様、絵画などは、パリ・ミラノ・東京のテキスタイルデザイナーのモチーフとして近年数多く採用されており、仕事でこの国を訪れる新進のテキスタイルデザイナーも増えている。また、伝統工芸や音楽は、海外のアーティストに人気が高く、美術系や音楽系の広いジャンルのアーティストがMUへの永住を希望している。近年、王国政府は原住民の文化を国の財産とし保護政策を展開している。国立博物館が中心となって、固有文化の保存および公開に尽力しているが、原住民の宗教儀式だけはその伝承を公開したくないようである。



宗教

Religion

宗教も文化と同様、海外からの宗教が流入している。大きく分類すると、国民の40%がキリスト教系、10%が仏教系、そして残りの50%が、「MU」王国固有宗教の神を奉る宗教である。この「MU」王国の固有宗教は、宇宙より石の船でMUに降り立ち国を興したとされる、古代神コス・ニギを中心とする神々を奉る宗教で、MU古代神教とでも表現すれば適切であろうか。Apa市の大神殿やDimana市の海上神殿、各地のストーンヘンジなどはこのMU古代神教の象徴的建築物といえる。MU古代神教は、現在では他の宗教と同様に近代化しているがMU古代神教徒以外は参加できない秘密を重んじる伝統的儀式がある。国王も参加するこの儀式は、神秘的儀式とされ、愛想の良いMU国民でもその内容を聞くこと口をつぐんでしまい、いっさい話そうとはしない。非常にミステリアスな宗教である。MU古代神教は、MUの原住民の文化と深い関わりを持つ。神殿の彫刻の文様や宗教曼陀羅の極彩色の模様は、織物や染め物の柄や文様として国民に親しまれ多用されている。近年、パリ・ミラノ・東京のテキスタイルデザイナーにも採用されている。



歴史

History

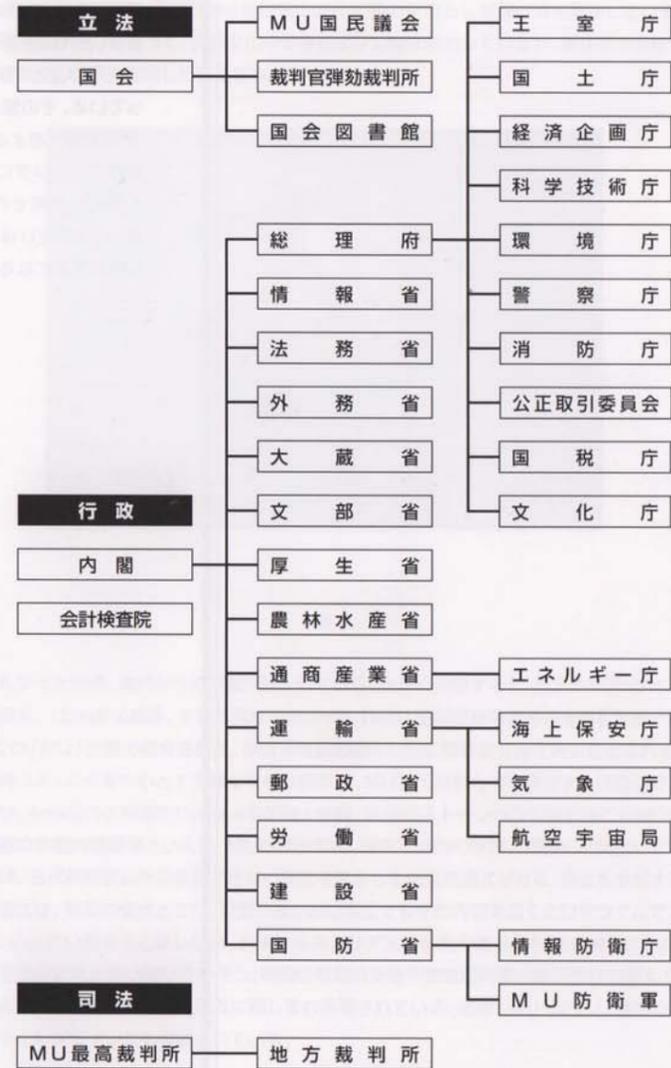
島のほぼ真北の山脈マヤ山の中腹の岩倉から7,000年から12,000年前の遺跡が発見されている。盗掘されてはいたものの、そこには岩をくりぬいた棺があり、その棺には古代MU文字で「ラ・ムー」と記されていたことから、初代「MU」国王の墓であることが判明した。島にはストーンヘンジのような遺跡が6箇所発見されている。遺跡は島全体を東西南北に十字を型どって点在している。その遺跡「ストーンヘンジのようなもの」が何を意味するのかはいまだに分かっていない。遺跡を構成する石の成分は隕石であることは科学的分析で判明している。また、各地で発見されている多くの住居跡からは、貝塚や農作物の畑の跡なども発掘されており、豊かな食生活がうかがえる。現在もっとも古い(約5,500年前に作られたとされる)とされている、古代MU文字で書かれた石盤がApa市の神殿へ向かう水路の中に立っている。そこには「あめつち初めてひらけし時、この地に神となる十二の光を納めたまう。」とある、この意味が何を意味するのかについては古くからさまざまな説があり、実際のところはよくわかっていない。この国の歴史を知る上でもっとも重要な要素として古代神話がある。これは、157代王ラ・アダラ王によって編纂されたとされ、代々王家が継承しており、古代は王家の者しか見ることは許されなかった。この神話は1560年から762代王ラ・ジャウ王と763代王ラ・ヌガラ王の二代の王の命により現代MU語に翻訳され現在に至っている。その量は、創世紀から始まり、繁栄紀、破壊紀、再生紀からなり、書籍にまとめると786冊におよぶ大作である。近代、「MU」王国は太平洋の北中央に位置するため、大航海時代にオランダによって発見され広くヨーロッパにその存在が知られることとなった。この時代に発見された太平洋上の島々はほとんどが植民地化されているにもかかわらず、「MU」王国だけは植民地化されなかった。その理由は、この島に立ち寄った船団のほとんどが行方不明になることから、幻の島、悪魔の住む島とされ恐れられていたからである。



政治

Politics

政治体制は日本と同様、議会制民主主義である。「MU」王国では、唯一の立法機関として「国会」、政治を行う行政機関「内閣」、法に基づいて裁判を行う司法機関としての「裁判所」の三権は分立している。また、国王はイギリスと同様「王は君臨すれど統治せず」を基本姿勢とし、統治権は持たず、国民の象徴として立法の承認や内閣総理大臣の任命等を行う。



■運輸省からのお知らせ

●運輸省では、水上飛行機の機体を飾るデザイン、イラスト、絵を募集しています。

応募作品の中から、厳正なる審査のうえ、最優秀作品を決定します。最優秀作品は1997年度より水上飛行機の機体のデザインとして、1年間使用されます。応募の詳細は、運輸省広報カウンターで情報を取得してください。

■文部省からのお願い

●文部省生物研究所では「クロスタイガー」についての情報を求めています。

「クロスタイガー」は「MU」王国のシンボリックな猛獣で年間1~2例の目撃情報がよせられていますが、文部省生物研究所ではより確かな情報を求めています。目撃された方、その他情報をお持ちの方は、文部省生物研究所までご報告をお願いします。

(注) 猛獣であるため、民間での捕獲計画は危険が伴いますので禁止されています。

「クロスタイガー」特徴

大型の猫科動物。標高400m以上から800mにかけて分布。実物は、雄で体長3m、体重は1tを超す巨体で、ベンガルドラによく似ているが、体の模様は気候によって異なる。

文部省生物研究所ではEco city北部で謎の巨大生物を見たとの報告が相次いでいることから謎の解明のために、目撃情報等を求めています。どんなささいな情報でも結構です。文部省生物研究所までご報告をお願いします。また、巨大生物は猛獣であることが想定されますので、森林などで遭遇された方は、即刻逃げてください。また、森林部への単独調査等は避けてください。被害に遭われた方は、警察までご連絡ください。

最近の目撃報告

- 大きな足音とうなり声が、キャンプ場のそばの森から聞こえてきた。
- 大きな足音とともに、巨大な影が丘を横切った。
- 夜半、犬がほえるので外へ出ると家畜の羊が数頭、巨大な牙でかみ殺されていた。
- 風力発電器に大きな爪痕が発見された。

■総理府からのお知らせ

●「MU」王国では、広く海外から居住権取得希望者(国民)を募っています。

「MU」王国国民になりたい方、国民として情報発信してみようとお考えの方で、「MU」王国の法律を遵守していただける方は総理府の審査、推薦により国王から国民の証(居住権)が授与されます。居住権取得希望者(国民)募集に関する詳しい情報は総理府広報カウンターで取得してください。

■通産省からのお知らせ

●「MU」王国の通産省では、広く海外の企業の国内進出を奨励するプロジェクトを展開しています。

「MU」王国の法律を遵守していただける海外企業で、「MU」王国で出店、ショールーム運営などを希望される方は通産省の審査、推薦により国王から営業権取得が認可されます。プロジェクトに関する詳しい情報は通産省広報カウンターで取得してください。

■運輸省からのお知らせ

●「MU」王国では、産業の活性化を目指し自動車の導入を検討しています。

「MU」王国独自の自動車を完成させる事を目的として「MU」王国の自動車の未来を表現するコンセプトカーのデザインを募集します。募集に関する詳細は、運輸省広報カウンターで情報を取得してください。夢のあるデザインをお待ちしています。

■王室庁からのお知らせ

●現国王767代ラ・ムンク・プリハットカン王は、国際行事への「MU」王国の積極的参加を推進されています。それにともない国歌の見直しプロジェクトが展開されています。

現国歌はMUの民族楽器での演奏を必要としますのでオリンピックなど国際的行事の場には不向きと考えられます。伝統を重んじる「MU」王国の姿勢を表現し、国際的な場で演奏できる国歌を募集しています。国歌募集に関する詳細は王室庁広報カウンターで情報を取得してください。各ジャンルの積極的な参加を希望します。

APAR

Apa市からのお知らせ

●Apa市では市のマークを募集しています。

市では市章(市のマーク)を募集しています。「MU」王国の首府で行政の中心地であるApa市にふさわしい市章をデザインしてください。応募作品の中から、厳正なる審査のうえ最優秀作品を決定します。最優秀作品は、市立の建築物や役所、公共施設に市章として採用されます。市章募集に関する詳細はApa市役所広報カウンターで情報を取得してください。

●湖の女王コンテスト出場者募集

Apa市では、「96年湖の女王コンテスト」を開催します。参加資格は、Apa市のシンボルである美しい湖にふさわしい18歳~25歳の健康な未婚の女性もしくは健康な未婚の女性に見える方で1年間、湖の環境保全とApa市広報の公務をしていただける方。国籍は問いません。湖の女王に選ばれた方は、Apa市の代表としてミス「MU」王国の選考会への参加資格が与えられます。湖の女王コンテスト出場者募集に関する詳細はApa市役所広報カウンターで情報を取得してください。

●博物館催事募集

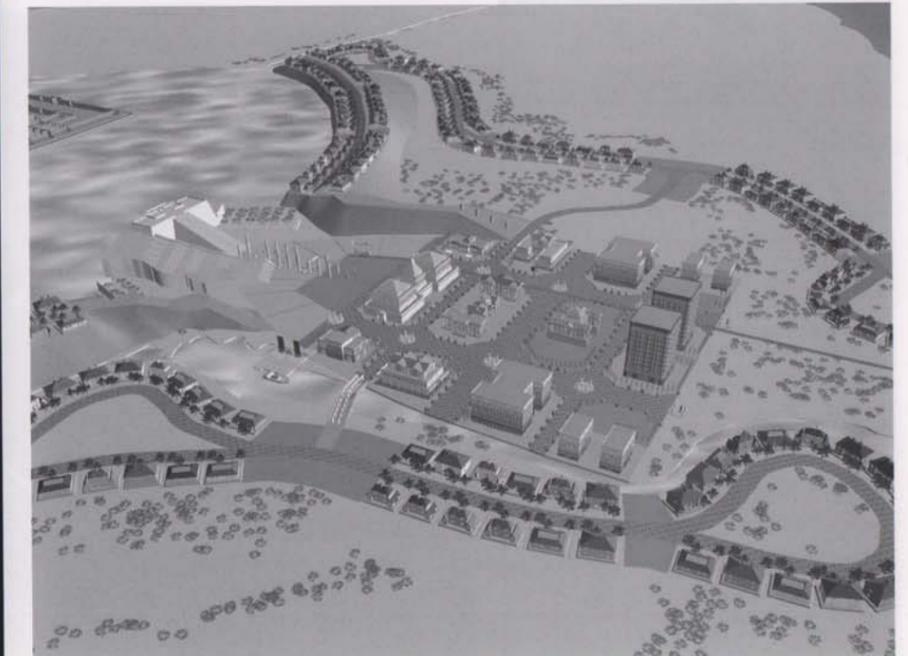
Apa市王立博物館では、館内での催事を募集しています。個人的コレクションや美術展、マニアの集いなど企画から展示会運営までができる個人、グループ、企業を募集しています。会場は現状復元が条件で、内装変更、飾り付けなどは自由です。また、企画・運営のご相談にも応じます。博物館催事募集についての詳しい情報はApa市役所広報カウンターで情報を取得してください。

●国会図書館からショートエッセイ募集のお知らせ

MU国会図書館では、「開かれた図書館になろうキャンペーン」を展開しています。この度キャンペーンの一環として「あなたに知らせたい、私の大切な一冊」という、ショートエッセイを募集いたします。あなたが読まれた本で、そのすばらしさやおもしろさを誰かに伝えたいと思う一冊をショートエッセイにまとめてご応募ください。優秀作品は、国王から表彰され、国会図書館から発表されます。ショートエッセイ募集についての詳しい情報はApa市役所広報カウンターで情報を取得してください。

●Apa市準市民権の発行のお知らせ

「MU」王国の首府Apa市では、準市民権の取得希望者を募ります。Apa市の市民権を取得すると、市民への公共サービスを受けることができます。準市民にはApa市の選挙、世論調査、湖の女王コンテストなどの市民投票等の行政への参加が義務づけられます。応募資格は、「MU」王国の法律および市条例を遵守していただける方ならばどなたでも応募いただけます。MU国内に居住する義務はありません。Apa市準市民権取得に関する詳細はApa市役所広報カウンターで情報を取得してください。



Saja市からのお知らせ

●Saja市では市のマークを募集しています。

市では市章(市のマーク)を募集しています。「MU」王国の空と海の玄関口で商業の中心地であるSaja市にふさわしい市章をデザインしてください。応募作品の中から、厳正なる審査の上最優秀作品を決定します。最優秀作品は、市立の建築物や役所、公共施設に市章として採用されます。市章募集に関する詳細はSaja市役所広報カウンターで情報を取得してください。

●クイーンSajaコンテスト出場者募集

Saja市では、「96年クイーンSajaコンテスト」を開催します。参加資格は、「MU」王国の玄関口Saja市にふさわしい国際性を持つ18歳~25歳の健康な未婚の女性もしくは健康な未婚の女性に見える方で1年間、国賓の送迎や国際見本市のコンパニオン等のSaja市広報の公務をしていただけの方。国籍は問いません。クイーンSajaに選ばれた方は、Saja市の代表としてミス「MU」王国の選考会への参加資格が与えられます。クイーンSaja出場者募集に関する詳細はSaja市役所広報カウンターで情報を取得してください。

●Saja市準市民権の発行のお知らせ

国際都市Saja市では、準市民権の取得希望者を募ります。Saja市の市民権を取得すると、市民への公共サービスを受けることができます。準市民にはSaja市の選挙、世論調査、クイーンSajaコンテストなどの市民投票等の行政への参加が義務づけられます。応募資格は、「MU」王国の法律および市条例を遵守していただける方ならばどなたでも応募いただけます。MU国内に居住する義務はありません。Saja市準市民権取得に関する詳細はSaja市役所広報カウンターで情報を取得してください。

●商店街テナント募集

Saja市旧市街地の商店街では、テナントを募集しています。朝から夜までにぎわう、旧市街の商店街にあなたのお店を出店しませんか。「MU」王国の法律および市条例にふれなければ、業種は問いません。海外の個人および企業の積極的な出店を希望します。Saja市旧市街地テナント募集に関する詳細はSaja市役所広報カウンターで情報を取得してください。

●MU王国 国際料理王決定戦

国際都市Saja市では、「96年料理王決定戦」を開催します。創作MU料理、伝統MU宮廷料理、エスニック料理等、腕をふるうジャンルは自由です。我こそはと思う料理自慢の方、是非チャレンジしてみてください。出場はプロ、アマチュアを問いません。国際料理王決定戦に関する詳細はSaja市役所広報カウンターで情報を取得してください。

●マナ区での悪質商法にご注意ください。

マナ区では、怪しい地図を売りつけたり、占いや呪術などの悪質商法による被害が後を絶ちません。路上で呼びかけられても、絶対に相手にしないでください。もし、被害にあった場合はすぐ最寄りの警察へ届け出てください。



Dimana市からのお知らせ

●Dimana市では市のマークを募集しています。

市では市章(市のマーク)を募集しています。「MU」王国が誇るリゾート地Dimana市にふさわしい市章をデザインしてください。応募作品の中から、厳正なる審査の上最優秀作品を決定します。最優秀作品は、市立の建築物や役所、公共施設に市章として採用されます。市章募集に関する詳細はDimana市役所広報カウンターで情報を取得してください。

●ビーチクイーンコンテスト出場者募集

Dimana市では、「96年ビーチクイーンコンテスト」を開催します。参加資格は、Dimana市のシンボルである美しい白いビーチにふさわしい18歳~25歳の健康な未婚の女性もしくは健康な未婚の女性に見える方で1年間、市の環境保全とDimana市広報の公務をしていただけの方。国籍は問いません。ビーチクイーンに選ばれた方は、Dimana市の代表としてミス「MU」王国の選考会への参加資格が与えられます。ビーチクイーン出場者募集に関する詳細はDimana市役所広報カウンターで情報を取得してください。

●Dimana市準市民権の発行のお知らせ

リゾートシティDimana市では、準市民権の取得希望者を募ります。Dimana市の市民権を取得すると、市民への公共サービスを受けることができます。準市民にはDimana市の選挙、世論調査、ビーチクイーンなどの市民投票等の行政への参加が義務づけられます。応募資格は、「MU」王国の法律および市条例を遵守していただける方ならばどなたでも応募いただけます。MU国内に居住する義務はありません。Dimana市準市民権取得に関する詳細はDimana市役所広報カウンターで情報を取得してください。

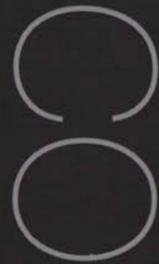
●サーフィニング&クイーンコンテスト

Dimana市では、「96年MU王国サーフィニング&クイーンコンテスト」を開催します。この大会は国際大会で、内外の実力者が技を競い合うレベルの高い大会です。珊瑚の白い海岸でサーフィンの腕を競いませんか。応募資格はありません。シニアからジュニアまでごぞってご参加ください。サーフィニングコンテストに関する詳細はDimana市役所広報カウンターで情報を取得してください。

●MUフィッシング王トーナメント

Dimana市では、「96年MU王国フィッシング王トーナメント」を開催します。この大会は国際大会で、内外の実力者が海釣の技を競い合う権威のある大会です。優勝者には国王から表彰状と「MU」王国海釣王の印が贈られます。応募資格はありません。ビギナーからベテランまでごぞってご参加ください。サーフィニングコンテストに関する詳細はDimana市役所広報カウンターで情報を取得してください。





Eco cityからのお知らせ

●Eco cityでは市章(市のマーク)を募集しています。

環境保護と共生の街Eco cityにふさわしい市章をデザインしてください。応募作品の中から、厳正なる審査の上最優秀作品を決定します。最優秀作品は、市立の建築物や役所、公共施設に市章として採用されます。市章募集に関する詳細はEco city市役所広報カウンターで情報を取得してください。

●ナチュラリストクイーンコンテスト出場者募集

Eco cityでは、「96年ナチュラリストクイーンコンテスト」を開催します。参加資格は、環境保護と共生というEco cityのコンセプトにふさわしい18歳~25歳の健康な未婚の女性もしくは健康な未婚の女性に見える方で1年間、市の環境保全とEco city広報の公務をしていただける方。国籍は問いません。ナチュラリストクイーンに選ばれた方は、Eco cityの代表としてミス「MU」王国の選考会への参加資格が与えられます。ナチュラリストクイーン出場者募集に関する詳細はEco city市役所広報カウンターで情報を取得してください。

●Eco city準市民権の発行のお知らせ

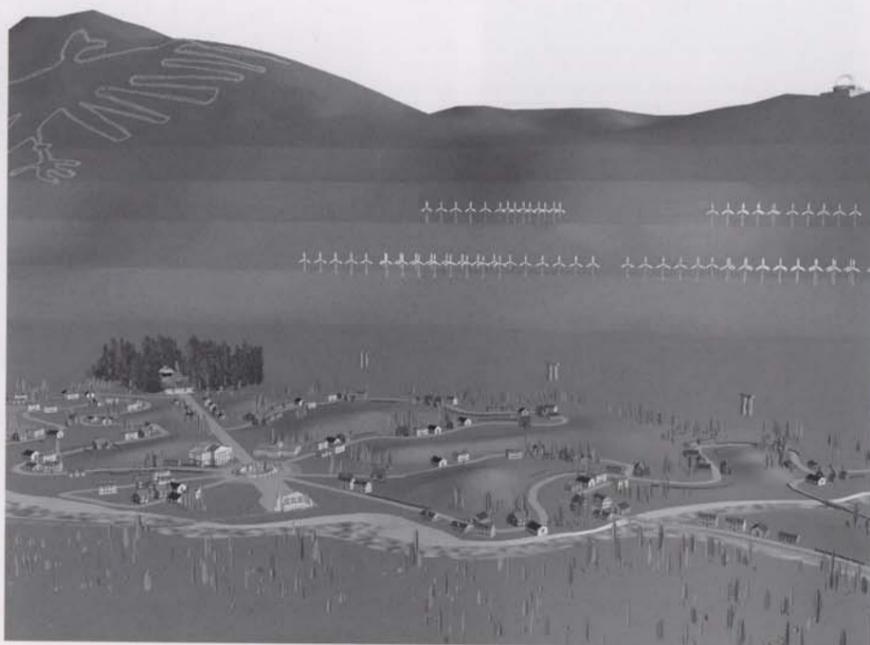
Eco cityでは、準市民権の取得希望者を募ります。Eco cityの市民権を取得すると、市民への公共サービスを受けることができます。準市民にはEco cityの選挙、世論調査、ナチュラリストクイーンなどの市民投票等の行政への参加が義務づけられます。応募資格は、「MU」王国の法律および市条例を遵守していただける方ならばどなたでも応募いただけます。MU国内に居住する義務はありません。Eco city準市民権取得に関する詳細はEco city市役所広報カウンターで情報を取得してください。

●マイペット自慢コンテスト

Eco cityでは、「96年MU王国マイペットコンテスト」を開催します。あなたの自慢のペットを、みなさんと品評。かわいいあなたのペットを市民のみなさんに自慢してあげてください。応募資格はありません。動物好きな方こそってご参加ください。マイペット自慢コンテストに関する詳細はEco city市役所広報カウンターで情報を取得してください。

●ポピュラーソングコンテスト in MU

Eco cityでは、「96年MUポピュラーソングコンテスト」を開催します。内外のミュージシャンによる、「MU」王国最大の音楽イベントです。応募資格、ジャンルの指定はありません。また、プロ、アマチュアを問いません。インディーズミュージックも大歓迎です。MUポピュラーソングコンテストに関する詳細はEco city市役所広報カウンターで情報を取得してください。



ザ・ゲイト 「MU」王国の謎 創世紀編

それは、ある日の午後のことだった。

私がいそいそと釣りに出掛けようとしていると、荷物が届いた。一体誰からなのだろう？ 私はでばなをくじかれた思いでその荷物をしげしげと見つめた。

ダンボール箱には宛て名が書かれており、見るとそれは確かに私の名前と住所に間違いない。送り主はと見ると、国立博物館館長のミュージア氏となっている。

私には、まったく心当たりがなかった。

私の名前はヒーロー・コールドフィールド。この「MU」王国のエコ・シティに住んでいる小説家だ。もっとも、最近では小説を書いているよりも川で釣りをしているときの方が楽しくて、ほとんど家にいることはないのだが……。

ダンボールを開けてみると、中には日記帳が1冊と資料らしきもののコピー、写真、ビデオテープが1本とフロッピー1枚が無造作に放り込まれており、1通の手紙が一番上に入っていた。私は封筒を開け、手紙に目を通した。

親愛なるヒーロー・コールドフィールド様

突然のお手紙に、さぞ驚かれたことと思います。

実は貴方のご親友である考古学者ワンギ博士は、当博物館を再三訪れられては、わが国の古代神話のご研究をされていました。

先日も来館され、古文書を閲覧されていました。その日は、私もお挨拶をいたしましたのでよく覚えているのですが、もし、ご自分の身に何かあったときには、真っ先に貴方様に連絡してくれるようにと、住所とお名前を書いたメモを受け取ったのです。

私はその意味が分からないままにメモを受け取った次第ですが、何とその日の午後、閉館時になっても出てこられないので見に行きますと、机の上にこの荷物が置かれたまま、姿が見えません。どうやら、私の気づかない内にどこかに行かれてしまったようなのです。

荷物は数日間お預かり致しておりましたが、メモにあった貴方様のお名前と住所宛にこうしてお送りする次第です。

あなたのしもべ

国立博物館館長C・ミュージア

不思議な手紙だった。確かに私はワンギを知っている。知っているどころか、無二の親友だったのだ。そう、1年前までは。その原因になったのは彼の突然の友情破棄宣言だった。なぜそんなことを彼が言い出したのか、まったく私には理解できなかったのを覚えている。

あの時のことと、この荷物とが何か関係しているのだろうか？ 私は狐につままれたような気持ちでダンボールの中から日記帳を取り出し、いつもの癖で一番最後の頁を開けてみた。そこには、白い頁の真ん中に書きなぐるようなペン書きがあった。日付は書いていなかったが、館長が手紙に書いてあったように、その前の頁の日付は10日ほど前の日付になっていた。

ついに見つけたぞ！
ネクロシティへの入口が。
明日、いよいよ試してみることにする。

彼にしては想像できないほどの興奮状態にある字であることは、他の頁をめくってみれば分かる。私は彼の字はよく知っているし、かつて1度も彼が興奮して理性を失うところを見たことがないほど冷静沈着な男であることも知っている。

彼は私と同じ大学に通っていた同級生であり、私とは比べ物にならない勉強家だったのだが、不思議とうまが合い一生の友人としてつきあってきたのだった。

ネクロシティ、一体何のことなのだろう？ 私には全く意味が分からなかった。

私は何かのコピーらしいものの束を手にとってみた。判読できない文字で書かれたものに訳がついている。多分ワンギがつけたものなのだろう。その字には見覚えがあった。そして、私にはそれが一体何について書かれたものなのかはすぐに分かった。

私は次にビデオテープを見てみることにした。

30分が経った。そこには退屈な映像が映っていた。カメラを一ヶ所に据えたままにしてテープだけが回っている。その映像はどこかの遺跡の映像だった。この街にも遺跡はあるが、それがこの街のものかどうかは判断できない。闇の中の照明に浮かび上がる遺跡。私は途中で見るのをやめ、ビデオを止めた。

写真は同じ遺跡を写したもののようで、中心の辺りがぼやけたピンボケ写真だ。

フロッピーをパソコンに入れてみると何やら図面のようなものがモニターに現れた。建物の図面のようにも見えるし、飛行機とか車のような機械の図面のようにも見える。その図面は数頁にわたっているのだが、もともとこういったものを読む力のない私にはそれが一体何なのかまったく見当もつかなかった。

私は階下のバーに下りていった。1杯やって頭を整理してから取りかかろうと思ったからだ。実は私はバーの2階に暮らしている。といっても、このバーは私の恋人がやっていた店で、私は2階に居候していたのだが、彼女が死んでしまったからは客たちが勝手に集まってきては勝手に飲んで喋って、勝手に勘定をする店になっていた。

従って私は独り者というわけなのだが、好きな釣りと酒と、そして死んでしまった彼女には悪いのだが、美人には不自由しない暮らしをしている。こんな気ままにわがままな暮らしをしていると、どうも編集者と会うのも、電話で話すのもおっくうになってしまって、最近はインターネット上に作品を発表することが多くなっている。

●

スコッチの煙たいシングルモルトをショットグラスでひっかけて、ひとりカウンターに座って私は考えた。一体彼に何が起こったのか？と。そして、突然人が変わってしまった1年前のことを思い出そうとした。

「コールドフィールド君、君は死後の世界を信じるかね？」

確か、ワンギは私にそう訊ねたと思う。

「そんな物はないよ。精神の死は肉体の死に含まれるんだから」

私は多分そう答えたと思う。なぜなら、私は今でもそう思っているからだ。そして、そのときの私の答がそのきっかけだったような気がしてならないのだ。

今までそんな話をしたことがなかったわけではない。

「小説家というのは唯物論者なんだな」

「そう、だから本当のような嘘にあこがれるのさ」

そんな会話をした覚えもある。

だが、あのときのワンギは違った。

「生の中に死は内包されているが、死の中に内包されている生もあるんだ」

確か、彼はそんなことを言ったと思う。とても私のことを憐れむような目で。

「思い出した！」私は、カウンターを右手の握り拳で叩いてそう叫んでいた。

ネクロシティという言葉をあのときワンギが使ったのを思い出したからだ。確か、そうだ、「ネクロシティに行くつもりだ」とあのときワンギは言ったのだ。

私は階段を駆け上がり、日記帳の一番最初の書き出しの頁に目を通した。書き出しはたった1行だった。

『今日、文部省諮問委員会からの招集を受け、念願のネクロシティ調査団の一員として任命される。』

日付はちょうど1年前のものだった。

彼が何にひかれ、何を研究テーマとしていたのかをこの最初の書き出しから読み取ることができた。

私は、日記を読み進んだ。

10月25日

いよいよ明日団結式。アパの文部省庁舎8階集会室にて。

そうそうたるメンバーが集合することになる。とりわけ、アパの神殿に関する神話に詳しいゴードン博士とご一緒することになるのは、大変名誉なことだと思っている。

私の想像ではゴードン博士はネクロシティに1度行ったことがあるのではないかと思う。なぜなら、突然に発表された創世記神話の訳はこれまでの学説をくつがえすに十分な内容でありながら、説得力のある仮説であり、これまで発見されていない新事実が多すぎるからだ。

だが、彼の仮説が、1ヶ所であるのには不満である。私はもっとあると思うのだ。多分12ヶ所は。

10月26日

団結式終了。アパのホテルで小さなパーティが開かれる。

思ったとおり、今回の実地調査はゴードン氏の仮説を証明しようとするものである。

確かに、アパ神殿が入口であり、年に1度だけ開かれるとする氏の仮説はシンプルであり、勿論説得力がある。

この国の最も古い神話の中に出てくる国造りの神コス・ニギを祭るアパ神殿にある入口は、コス・ニギ神がこの国のオクト山に天下ったとされる12月9日に開くとゴードン氏は断言したのだ。

この日付の特定がまず氏の功績である。古代の日付と現代の日付とのズレを見事説明したことは評価される。さらに、時間の特定。

今世紀に入ってからも各国の調査団が神殿内に入ろうとして入れないまま引き上げている。そして、今までに何人もの人々が神殿に入ったまま出てこなかったと言われているが、戻ってきた人も何人かいるに違いないのだ。私は、氏もまたその1人なのだという確信を持っている。

私は戸惑いを覚えた。アパ神殿には行ったことがあるが、古代の遺跡としての知識しかなかったからだ。12月9日には祭りがあり、神殿の内部は国民に一般公開されている。だが、どうやらその奥にまだ入口か何かがあるとでも言うのだろうか。

コス・ニギ神は金色の目をした神で、この神が人間との間に作った子供がラ・ムー、古代ムー語で「太陽の子」と名付けられた、この国の初代国王である。

アパ神殿はコス・ニギを祭っているとされている。そして、神殿の入口に当たる水路には、わが国最古の石盤——確か5,500年程前のものだという話だ——に文字が刻まれていて、それには、この国ができたときに12人の神が天から降ってきたというようなことが書いてあるということだ。これは現在の王家の紋章に使われていて、それは驚をかたどったものだという事だ。……。

こんなことは学校の歴史の勉強の範囲で子供でも知っていることなのだが、私にはこれ以上の知識も興味もないまま今に至っている。

私も神殿に入って戻ってこれなかった人の話は祖母から聞いたことがある。そして、神殿に一度入って消えてしまい、ふたたび戻ってきたのではないかと噂された人の話も聞いたことがある。その人たちは急に人が変わったように絵を描きはじめたり、宗教家になったり、気が狂ってしまったりしたという。だから、急に人が変わってしまった人のことをこの国では「アパになった」と言うのだ。

私にとって友人のワンギの変わり方は、まさに「アパになった」という言い方がピッタリだったわけだが、本当にアパ神殿がその原因だったとなると笑うわけにもいかない。

この1年の間に、いや、それまでに彼は何を研究していたのか？ 私は彼との友情を回復する為にもこの謎を解きあかさなければと思った。

私は階下に下り、さらに地下に下りていった。日記を読み進む前に気合を入れようと思ったからだ。というのは私の住居の地下はワインカーヴになっていて、私のお気に入りのワインがたんとねかせてあるのだ。

私はワインが大好きで、フランスにワイン畑を持っているほどなのだ。今では畑のブドウの成長をインターネットで見て、その年のワインの出来具合を予測して楽しんでいる。

1階のバーの客たちにふるまうこともあるが、ワインに対する嗜好はそれこそ千差万別で、ワイン好きの連中のウンチクには辟易してしまうほどだ。もっとも、釣りに関するウンチクだって決して彼らに引けは取らないと思うのだが、私にはこちらの方が気が休まる思いがする。そういえば、ワンギとはワイン論争も釣り論争もしたことがなかった。

彼は、不思議なほど私と話が合ったし、お互いの好みを押しつける必要もなかったからだ。今思うと、1年前の出来事は余りに唐突な印象を受ける。とてもあのときの彼の言動は不自然に思えるのだ。今日はワンギの好きだったワイン、ブルゴーニュの赤でも飲みながら彼の1年前のことを追体験してみることにしようと思う。

私は地下から1本のボトルを抜き出して2階に戻るとグラスに注ぎ、山羊のチーズをあてにしながらワンギの日記に戻った。

11月3日

第1回事前ミーティング。

始めから対立の様相。ゴードン博士の仮説の根拠は石盤の解釈にある。神は1人だったのか？12人だったのか？これは最も意見の対立した点だ。

私は12人の説をとるのだが、ゴードン博士は1人のみ。つまりコス・ニギのみがオクト山に天下ったとする解釈に基づいている。いや、というよりも、12というのは神の数ではなく、光の条数のことであるという解釈を博士はしている。

コス・ニギの背後から12条の光が射していたとする解釈なのだ。果してそうなのだろうか？

12の光とは、12の神であるとした方が納得がいくのではないだろうか。その方が、少なくとも4ヶ所、アバ、サジャ、ディマナ、エコシティに残っている神殿や遺跡の説明にはなる。神々が降臨した地を示すものこそ、神殿や遺跡であると解釈できるのではないか。

しかも、その神殿や遺跡をプロットしてみると、十字を描いているように見えなくもない。王家の紋章の十字の形はこれを表しているのではないか。ゴードン博士は、このことにもまったく触れようとしない。これもおかしい。

ネクロシティへの入口がたった1つであるとするならば、私が遺跡のそばで再三襲われるあの眩暈は一体何なのか。この国には、遺跡の近くで神隠しに遭ったという伝承が沢山残っている事が入口の存在を示しているように思えるし、それらの入口はリンクしているのではないかとも思える。入口がアバ神殿にだけあるとすることは余りに安易すぎると私には思えて仕方がないのだ。

明日のミーティングも、多分この論争に終始するのではないかと思われる。

私はコピーの束をめくった。そして、すぐに目当てのものを見つけ出した。それは古代MU文字の下に古語訳がついた石盤の写真のコピーだった。

私はその写真に見覚えがあった。ずいぶん昔のことになるが、小学校の教科書にこの写真が出ていたのだ。そのときには、確かこの国ができた時に12の光るものが送り届けられました、というような解釈を教師がしていたような気がする。そして、その意味は私は分からずじまいだ。

私はワインを一口すすって、その石盤の写真をじっとみつめた。この石盤にすべての秘密が隠されているような気がした。

תג אור קסמז רב לופאקל זרת זנמב

あめつち初めてひらけし時、この地に神となる十二の光を納めたまう。

私なりに現代語訳をしてみると、「天地が初めて開けた時、この地に神となる12の光(る物)を(神が)納めた」と読める。この文章には主語がない。主語がないときには神の言葉であるという決まりであるから、あきらかに神が主語だ。

とすると、12の光る物を納めた神は1人ということになる。だが、神となるというからには12人の神とも読める。そして、天地が初めて開けた時というのは地球誕生の頃、46億年前か、それとも20億年前の陸地が隆起した頃のことか、いずれにしても太古の頃の話になる。

もう一つ、主語がない文章がある。国王の言葉を記述したものだ。とすると、「天地が初めて開けた時、国王がこの地に神となる12の光る物を納めた」と読める。国王が主語だとすると、この地は狭い場所を示すことになりそうだ。例えばアパ神殿のような。さらに46億年や20億年前に人類は誕生していないわけだから時代は下がってくる。だが、人類誕生の300万年前から旧石器時代の50万年前までの間に王が存在したとは思えない。するとそれ以降の話であり、この石盤が書かれたとされる5,500年前までの間ということになる。

だが、待てよと私は思い当たった。こんな年代の推測に意味があるのだろうか。50万年前から5,500年前の間などという余りにも漠然とした年代の推測に。

私はまたワインをグラスに注ぎチーズを口に運んだ。白に合わせても問題のない芳醇な香りと口中の粘膜に絡みつくチーズを舌に感じながら、私はグラスを空けた。

そして、空けたグラスをテーブルに置いたとき、私は薄暗い光の中に取り残されるように座っていた自分を発見した。

いつの間にか夕方になっていた。私は立ち上がって窓際に行くと、遠くに見える川を眺めた。川に誰かが立っているような気がしたのだが思い過ごしだったようだ。

私は窓辺で細巻きの葉巻を1本やってからデスクに戻り、明かりを点けると、コピーの束の中にネクロシティという単語を探した。見当たらなかった。私は、ワンギと違って神話には余り詳しくない。だから、この単語の意味も分からないのだが、1年前にワンギたち調査団の一行はどうやらその街に調査に行こうとしていたらしいことは分かってきた。

ワンギは、その入口が12あるのではないかと思っていたようだ。だが、入口と言う意味が分からない。私は、ワンギが訳した神話のコピーを手に取った。この創世記の神話も確か石盤と同じ頃につくられたものだと聞いたことがある。

創世記

I

海は泡のように沸き立ち、
赤銅を溶かしたような色をして煮えたぎっていた。
空には数百の稲妻が昼夜の別なくほとぼしり、
重たい天に突き刺さっていた。
夜になり、やがて昼になり、幾億年が過ぎた。
雨が降り続いた。
そしてまた、幾億年が過ぎた。
赤銅の海が盛り上がり、海が持ち上げられた。
赤く燃える石の塊は、
裂け目からちろちろと蛇の舌のような輝きをのぞかせ、
雨はその石の塊に容赦なく降り注いだ。
燃える石はやがて冷えて固まり、黒々とした姿を現した。
そしてまた、幾億年が過ぎた。

II

神はそれを見て善しと思われた。
そして、その地を天上と同じようにしようと思われた。
神は使者を遣わすことにした。
神は天上にあるものを十二の石の船に乗せ、
この地に送り届けることにした。
十二の石の船は光の帯を引きながらこの地を目指した。
この地に辿り着く直前、石の船は赤く燃え上がり、
今しも燃え尽きようとするかに見えたが、
やがて、辺りに轟く大音響とともに大地に激突した。
辺りには茸のような雲がわきあがった。
神はそれを見て、善しと思われた。

III

使者の乗った石の船は、
神の指さした山の頂に辿り着いた。
残りの石の船も大地に辿り着いた。
それは大地の上に十文字の印を示していた。
次々に石の船は開かれ、
天上にあった物が大地の上に散りばめられていった。
やがて黒々とした大地には草が芽生え、木が育ち、
小さな生き物たちが動き回るようになった。
こうして幾億年が過ぎた。
使者はこの間、
降り立った山の頂で静かに待っていた。
使者の名前を、
コス・ニギと言った。
降り立った山の名前を、
オクト山と言った。

IV

コス・ニギは、やがて麓へと足を向けた。
しばらく歩いた後、キリーという村に辿り着いた。
コス・ニギを見た村人たちは、
その金色に輝く目に恐れおののいた。
村長は村人の不安を取り除こうと、
コス・ニギの命を奪おうとしたが、
コス・ニギが白色に輝く玉を取り出すと、
村長は一瞬にして消え去った。
村人はそれを見ると神としてあがめ、
共に暮らしはじめた。
こうして、幾万年が過ぎた。
やがてコス・ニギと村の女との間に子供が生まれた。
子供はラ・ムーと名付けられた。
太陽の子という名だった。

V

コス・ニギはラ・ムーの成長を見届けると、
オクト山の頂に登り、
石の船の中に青い光とともに吸い込まれた。
コス・ニギが去ったあと、その跡から石盤が見つかり、
それにはこうして書かれていた。
「もしこの国病むことあれば、十二の神宝をもって
まじないしわたしの名前を呼ぶべし。もしこの十二
の神宝の使い道を誤るとき、この国必ず滅ぶべし。」
ラ・ムーはこの教えを守り、
十二の神宝の力により、初代のムー国王となった。
国は治まり平和が続いた。
オクト山の頂には水上神殿が設けられ、
ラ・ムーは神殿の上で毎朝太陽に祈りを捧げた。
神はそれを見て善しと思われた。

VI

永い永い平和のときが過ぎ去った。
第一五〇代ラ・クルワット王の治世の頃、
弟マウブリは兄を殺し王位を奪い、
王、法、産という三つの神宝を手にした。
神宝を石の船が降り立ったところに置き
コス・ニギの名を唱えると、
一夜にして神殿の回りに街が立ち現れた。
マウブリは、神殿での礼拝もせず享楽にふけた。
やがて国は乱れ、疫病が流行るようになった。
それを見て神は怒り、
オクト山の頂に巨大な燃える岩を衝突させた。
大地が揺らぎ街は吹き飛び山は炎に包まれ、
海が割れ、国はその中に沈んでいった。
賢きものと神殿だけが残った。
そして、神はインドラを封印された。

私はここまで読んできてため息をついた。神話というものがでたらめなことは知っていたが、これが私の住む「MU」王国の神話かと思うと呆れてしまう。なぜなら、この神話は明らかに先住民であるムー原住民を統治する征服者としての歴史を都合よく書いたものだと思えるからだ。

つじつまは合ってはいるが、原住民、つまりは我々の先祖が一体どういう暮らしをしていたのか全く書かれていない。どう見てもこの神話は、太古の昔にこの国がどこかの国に侵略されたという意味にしか私には読めない。

果して、この神話がワンギ失踪の原因究明に役立つのだろうか。また、彼の居場所を示唆するようなことがここに書かれているのだろうか。私は資料をデスクの上に投げ出して立ち上がった。腹がへったことに気がついたからだ。

すでに1階のバーには客が来ていることだろう。私は受話器を取り上げ、バーを任せているマリーに電話して、サンドイッチか何か軽い食事を作ってくれるよう頼んだ。

空腹のまま赤ワインを飲み、細巻き葉巻をやりながら読んでいると少し酔いが回ってきたようだ。そのせいかどうか、私の手はまたワンギの日記の最後の頁をめくっていた。

ついに見つかったぞ！ネクロシティへの入口が。明日、いよいよ試してみることにする。

私はこの興奮でふるえる手で書かれた頁を開け、神話の整理にとりかかった。

- 1) この国に太古の頃、12の石の船が着陸した。1つはオクト山の頂上に、残りは十文字の形に着陸した。
- 2) マウプリは、王、法、産の3つの神宝を石の船が着陸した跡に置いて街を造った。
- 3) 神殿で太陽を拝まなかったのが神が怒ってオクト山に燃える岩を落とした。
- 4) 神はインドラを封印した。

まず1)だが、オクト山の頂上は現在カルデラ湖になっている。つまり、火山が爆発したということだ。このことは3)と関連がある。神の怒りではなく、オクト山は7,000年前に爆発したことが分かっている。そのときには、この国の大部分が海底に沈んでしまい、今残っているのは高い山の部分だと言われている。

しかし、この神話からすると、それ以前にコス・ニギの乗った石の船がぶつかって出来た穴に水が溜まったということになる。でなければ、ラ・ムーは水上神殿を造ることはできなかったはずである。

つい最近そのラ・ムーの石棺が発見されたが、7,000年から1万2,000年前のものだということが分かったそうだから、この神話が裏付けられたということになる。神話といっても、まったくのでたらめというわけでもなさそうなのである。

12の石の船というのは多分、隕石のことなのだろうと思われる。地球上の生物はすべて隕石が運んできたものなのだから、納得がいく。これが十文字、つまり鷲を表す現在の王家の紋章の形をとって衝突したということだ。アパ神殿のご神体は隕石だといわれていることから納得がいく。だが、アパ神殿以外の残りの11ヶ所の場所が分からない。

問題は2)だ。王、法、産という3つの神宝の意味が分からない。また、それを石の船が着陸した跡に置いて街を造った、というところが一番難しい。神宝。置く。玉のようなものを置いたのだろうか。それは1ヶ所に置いたのか？1ヶ所ならば、オクト山にあるアパ神殿しか考えられない。

3つの場所に別々に置いたとすれば、その3つの場所の特定の必要がある。1つはアパ神殿ではないかと思うが、残りの2つはどこに置いたのか？神話には地名が一切出てこない。アパの他に神殿や遺跡があるのは、ディマナとサジャ、そして私の住むエコシティということになるが……。

ワンギは遺跡の残っているところを結びと十字になると日記の中でいっている。これからすると、彼は3つの別々の場所に神宝をマウプリが置いた、という説をとっているということなのだろうか。

次に4)だが、これが一番のキーのように思える。インドラとは何か。封印したという意味も分からない。封印したのなら、どこかにあり、それを開けることも可能なのだろうか？文脈からすると、マウプリが造った街と読めなくもない。そうでなければ、唐突すぎる一文だ。マウプリの造った街インドラを封印した、ということなら意味は通じるが……。

アパ神殿を封印したとも読めなくはないが、アパ神殿はどちらかといえば現在は国民に開放されているといえる。ただ、その奥に何かの入口があるというのなら話は別だが。私は急に、最初に見た写真のことを思い出した。そして、そのピンボケの写真を手にとった。私には、その写真とビデオテープに写っていた遺跡とがまったく同じものであるように見えたが自信はなかった。

私は目を凝らしてなおもその写真を見つめた。その写真の中心辺りはぼやけている。というよりも、よく見ると揺らいでいる。陽炎がたっているような揺らぎ方ではなく、水面に立つ波紋のような空気の揺らぎに見える。

私はスイッチを入れ、止めてあったビデオテープの続きを見た。しばらく遺跡の映像が写っていたが、右側から何とワンギが画面に登場し、カメラに向かって喋りはじめた。

「今からする実験は、私の学説を証明するためのものです。つまり、ネクロシティへの入口は、ゴードン博士の言うように1ヶ所ではなくあと11ヶ所、つまり全部で12ヶ所あることを証明するためのものです。もうすぐ、私の計算した時間になります。次に私がどこに現れるか楽しみにしておいて下さい」

ビデオテープの中のワンギはそう言うと腕時計を見た。そして、こちらに文字盤を向けたが、アップではなかったので何時なのかは分からなかった。闇の中に照明が当たっているところを見ると夜なのだろうということしか分からなかった。それから5秒の後、ワンギは消えてしまったのだ。

私は「あっ」と声を上げた。私はテープを巻き戻し、スロー再生で見た。遺跡の中心から電波が発信されているように空気の波紋が浮かび上がり、ワンギはその波紋の中に姿を消していったのだ。私は画面をコマ送りしてみた。そこには、ワンギが空気の壁に吸い込まれていくように、だんだんと向こう側に抜けていく映像があった。

呆然とする私のデスクの上に、マリーが大盛りのサンドイッチの山をドンとおいた拍子に写真が裏返しになった。その写真の裏にはワンギの字で、こう書いてあった。

「これがネクロシティへのゲイトだ」



私は、マリーの作ってくれたBLTサンドイッチを口にくわえ、写真を手早く元に戻すとマリーの顔を見てにっこり笑い「ありがとう」と言った。マリーは不審げな顔をしながらも部屋を出ていった。

私は、ワンギの日記の続きに戻った。そして、とんでもないことを発見した。

11月9日

第2回事前ミーティング。

私と同じ考えを持つ学者はいなくなった。つまり、私1人がゴードン博士達と対立することになった。というよりも、そういうメンバーがあらかじめ選ばれていたらしい。

私にしたところで、元々はゴードン博士の門下生なのだから、こんな展開になるとは役人達も思っていなかったのだろう。

しかし、私は確信している。入口はまだ他にもあると。

私の計算した日時とゴードン博士が特定した日時とが同じであったとしたら、明後日のはずなのだが。その日時は直前に極秘にメンバーだけに知らされるということだ。

11月11日

ホテルに待機の日が続いている。

あとは直前の呼び出しとブリーフィングを残すのみとなる。

何ということだ。私は連絡を待っているつもりだったが、いつの間にかメンバーを外されていたようだ。

今、目の前でゴードン博士一行が記者会見を行っている映像がブラウン管に映っているのを見ながらこれを書いている。

私はとてもショックを受けた。そして、この学会というものにとっても失望した。

今や私は、私の学説を自分自身で証明するしかないのだ。

私もこれには少々驚いた。そして、ワングの性格からすると、この後どんな行動を彼が取ったのかは容易に想像できた。徹底してやる。それが彼のいいところでもあり、やりすぎてしまって周りを当惑させるところでもあるのだ。

主張が受け入れられなかったときの彼は、駄々っ子のような行動を取る。それは大学時代から変わっていない。まして、今回の場合は彼の専門の分野での意見の対立の後、排斥されたのである。どれだけ真剣に、徹底してやるのかと考えると空恐ろしくさえなる。

私はその頁の最後の1行を読んだとき、我が友ワングを探すと同時にネクロシティなるものを探す旅に出ることを、乾燥して少し固くなりかけたパンのへちを眺めながら決心していた。



■セットアップ

the GATEを始める前に、以下の手順に従って、お手持ちのコンピュータの確認とセッティングを行って下さい。

■Windowsセットアップ

①確認

- ・お手持ちのコンピュータにはMS-Windows3.1もしくはWindows95および、QuickTime2.0 for Windows (お持ちでない方は本CD-ROMに収録されています) がインストールされていますか？
- ・サウンドボード (Sound Blaster相当) がセットされていますか？
- ・ディスプレイは、640X480ドット/256色以上の表示能力を持っていますか？
- ・メモリは、4MB以上の空きメモリが確保されていますか？

もし、以上の条件が整っていない場合は、うまく再生できない場合があります。

②ディスプレイの設定を変更する

このCD-ROMは、256色モード以外では、正常に動作しません。256色設定になっていない場合は、一旦終了し、256色に設定してからお楽しみ下さい。

Windows3.1の場合

1. Windowsを立ち上げ、[メイン]グループから[Windowsセットアップ]ウィンドウを開いて下さい。続いて[設定]メニューから、[基本ハードウェアの変更]を選んで下さい。
2. [ディスプレイ]の項目には今セットされている解像度と色数が表示されています。右端矢印のクリックで、一覧が表示されますから、この中から[640X480 256色……]をクリックして選びます。
3. OKをクリックしてWindowsを再起動すればセッティング完了です。

注意：このディスプレイのセッティングは一例です。グラフィックボードやコンピュータの種類によって操作の異なる場合があります。お手持ちの機器やコンピュータのマニュアルで確認の上、操作して下さい。

Windows95の場合

1. Windows95を立ち上げ、[マイコンピュータ]を開き、コントロールパネル内の[画面]を選んで下さい。
2. [ディスプレイの詳細]で256色に変更します。
3. Windows95を再起動してセッティング完了です。

③起動

他のアプリケーションとの同時使用は、避けて下さい。また、出来ればスクリーンセーバーや壁紙の使用なども避けた方が無難です。

Windows3.1

1. Windows3.1を起動した後、本製品(A)をCD-ROMドライブにセットします。
2. ファイルマネージャーを開きCD-ROMのドライブを選びます。
3. the GATEディレクトリ内のSETUP.EXEを起動してハードディスクにインストールして下さい。
4. プログラムマネージャ上に新しくできたthe GATEグループの中のthe GATEアイコンをダブルクリックして下さい。オープニングが始まります。

Windows95

1. Windows95を起動した後、本製品(A)をCD-ROMドライブにセットします。
2. マイコンピュータを開きその中のthe GATEのCD-ROMを選びます。
3. the GATEフォルダの中のSETUP.(EXE)を起動してハードディスクにインストールして下さい。インストールが終了するとハードディスクにthe GATEフォルダが作成されます。

4. the GATEフォルダの中のthe GATEアイコンから起動して下さい。オープニングが始まります。

■Macintoshセットアップ

①セットアップ

以下の手順に従って、お手持ちのマッキントッシュの設定状況を確認してください。

1. <QuickTime><Sound Manager>をインストール
「起動ディスク」の「ハードディスク」アイコンから「システムフォルダ」を開き、そこにある「機能拡張フォルダ」の中に、<QuickTime2.0>と<Sound Manager3.0>がインストールされているかを確認してください。インストールされていない場合は、<QuickTime2.0>と<Sound Manager3.0>を「機能拡張フォルダ」の中にコピーしてください。
2. 「メモリ」を設定
「アップルメニュー」から、「コントロールパネル」の中の「メモリ」を開き、「仮想メモリ」を「切」に、「32ビットアドレス」を「入」に設定してください。「32ビットアドレス」の選択項目がない場合は、「仮想メモリ」のみ「切」に設定してください。
3. 「モニタ」を設定
「コントロールパネル」の中の「モニタ」を開き、「256モード(カラー)」に設定してください。
4. 再起動
上記の設定操作のいずれかを行った場合、必ずマッキントッシュを再起動してください。
5. メモリ領域の確認
「アップルメニュー」から「このマッキントッシュについて」を選び、「最大未使用ブロック」が4,000K以上であることを確認してください。4,000Kに満たない場合は、メモリを増設するか、他のアプリケーションを終了するなどして、必ず「最大未使用ブロック」を4,000K以上確保してください。

②起動

ディスクをCD-ROMドライブに入れ、「HDにコピーしてください」というホルダーを、ハードディスクにコピーしてください。コピーしたフォルダ内の「the GATE」アイコンをダブルクリックすれば起動します。

※本製品はCD-ROM2枚1組です。

「CD-ROMを、入れ替えてください。」とメッセージがでましたら、もう一枚のCD-ROMと交換して、「OK」ボタンをクリックしてください。(CD-ROMを交換したときに、読み込みに少々時間がかかります。あらかじめご了承ください。)

■インターネットへの接続

インターネットへは、お手持ちのコンピュータのインターネット接続環境を整えた上で画面内のインターネットボタンをクリックして接続ください。自動的にブラウザが立ち上がり、MUサーバーの当該ホームページを見ることが出来ます。

対応通信ソフト：Netscape Navigator ver1.0以上

■音量調節について

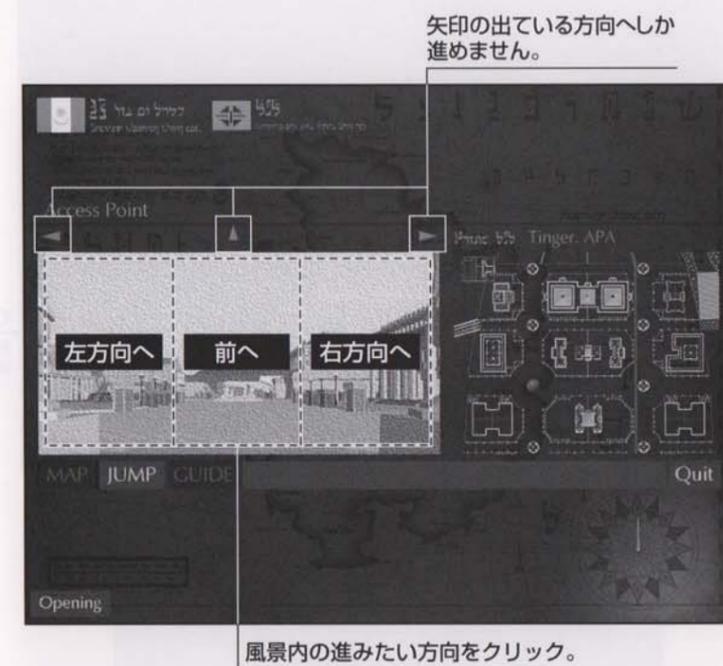
キーボードの上下の矢印キーで随時調節できます。

■操作方法1

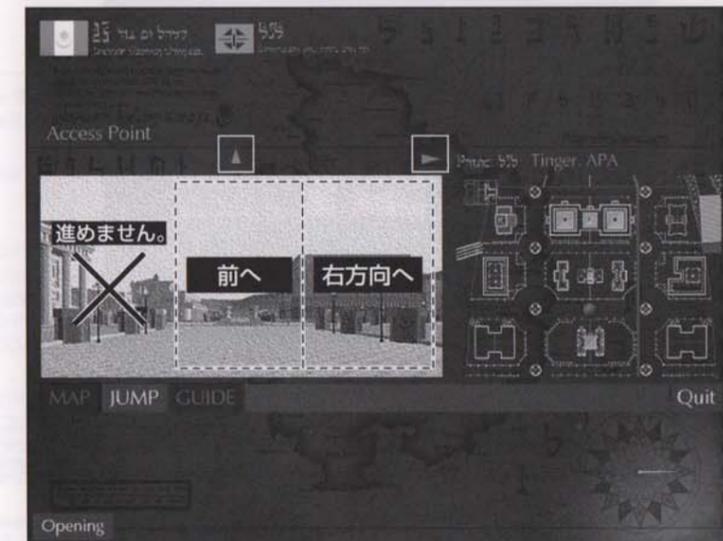
「the GATE」が起動すると、「MU」王国を旅することができます。

進み方 — ウォークスルー

画面上の進みたい方向にカーソルを置き、クリックするとその方向へ進むことができます。



●この画面では、左方向への矢印が出ていませんから左へは進めません。



■操作方法2

画面上のボタンの使い方

MAP

現在いる市の地図を表示します。地図上の行きたい場所をクリックすると、その場所へジャンプできます。



MAP JUMP GUIDE

Opening

QUIT

終了します。再開するときはあらためて起動してください。

GUIDE

「MU」王国の居住者リストが表示されます。リスト上の居住者名をクリックすると、その場所へジャンプできます。

JUMP

「MU」王国全土の地図が表示されます。地図上の行きたい場所をクリックすると、その場所へジャンプできます。



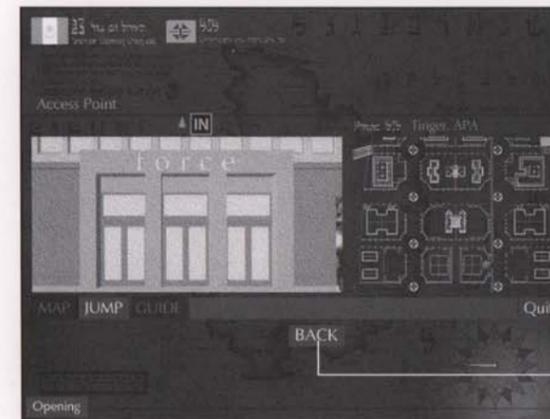
Internet

入居者のインターネットホームページに接続します。インターネットへは、お持ちのコンピュータのインターネット接続環境を整えた上で画面上のインターネットボタンをクリックして接続ください。

対応通信ソフト：Netscape Navigator ver1.0以上

※注意

街から街への移動でCD-ROMをAからBへ取り替えなければならないときは、画面上の指示に従ってください。



BACK

家やビルの入口から、道路へバックすることができます。



RETURN

家やビルの中から、道路へ戻ることができます。RETURNが現れるとBACKの表示は画面から消えます。

■ハイブリッド版CD-ROM "the GATE"

*ハイブリッド版とは、Windows系、Macintosh系の両方のコンピュータで見ることができるCD-ROMのことです。

[CD-ROM]CD-ROM for Hybrid

■再生に必要なハードウェア

CD-ROM for Windows

●本体：1486/33MHz以上のCPUを持つもの。●システムソフトウェア：MS-DOS.6.2/MS-Windows3.1またはWindows 95/QuickTime2.0 for Windows (お持ちでない方は本CD-ROMに収録されています)が必要。●メモリ：実装8MB以上。●ディスプレイ：640X480ドット256色表示。●サウンドボード：Sound Blaster 相当。●その他：マウス/CD-ROMドライブ (倍速以上を推奨)。

CD-ROM for Macintosh

●本体：68030/16MHz以上のCPUを持つもの。68LC040/25MHz (LC475) 以上を推奨。●システムソフトウェア：漢字Talk 7.1以上。●メモリ：5MB以上の空きメモリ。●ディスプレイ：13インチ、256色を表示可能なもの。●CD-ROMドライブ：倍速読み出しが可能なものを推奨。●QuickTime 1.6.1以上が必要。●Sound Manager 3.0以上が必要。

Manufacturing & Copyright: Force co., Ltd. / 情報処理振興事業協会
WARNING: All Rights Reserved. Unauthorized duplication is violation of applicable laws.

このソフトウェアは一般家庭内における私的な再生に限って販売されています。従って著作権者および出版権者への書面による許可無く、レンタル、複製、放送、有線送信、上映などに使用することを禁止致します。

CD-ROMは精密機器です。高温、多湿、直射日光の当たる場所にはおかないで下さい。MS-Windowsは米国マイクロソフト社の、Macintosh、QuickTimeは米国アップルコンピュータ社の、Directorは米国マクロメディア社の登録商標です。その他記載されている製品名、会社名、ロゴマークは登録商標または商標です。

本CD-ROMに関するお問い合わせは、FAXにてお願いします。

問い合わせ先：有限会社フォース
大阪市北区豊崎2-7-5 東洋新御堂ビル
お問合せFAX：06-371-3560

本商品に関するお問い合わせ先：

株式会社毎日コミュニケーションズ
東京都千代田区一ツ橋1-1-1ハレスサイドビル
マルチメディア事業課 TEL03-3211-2534
販売業務課 TEL03-3211-2568

Made in Japan

■the Gate 制作スタッフ

CD-ROM

プロデュース	金谷 仁史 (フォース)
プランニング	安田 忠之 (フォース)
	村田 聡 (村田企画制作所)
アートディレクション	安田 忠之 (フォース)
オーサリングディレクション	赤井 康之
プログラミング	長澤 恒也 (京都ソフトウェアリサーチ)
3D CG 制作	株式会社プラスワン
	有限会社パワーホーム
サウンドデザイン	岡野 弘幹

BOOK

プランニング	村田 聡 (村田企画制作所)
	安田 忠之 (フォース)
ブックデザイン・アートディレクション	穂積 幸弘 (プラネット)
本文執筆	村田 聡 (村田企画制作所)
	寒田 寛

the GATE I ー王国「MU」への扉ー

1996年10月1日 初版第1版発行

発行人 佐々山泰弘
発行所 株式会社毎日コミュニケーションズ
〒100 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル
TEL 03(3211)2534 (マルチメディア事業課)
03(3211)2568 (販売業務課)

編集・DTP 有限会社フォース
有限会社村田企画制作所
ブックレット印刷・製本 大日本印刷株式会社
CDプレス/Ba's Tray/表紙印刷 株式会社金羊社

定価はパッケージに表示してあります。乱丁・落丁・不良ディスクはお取り替え
いたします。

©1996 フォース/情報処理振興事業協会

©1996 毎日コミュニケーションズ

本書のCD-ROMを含むすべての内容は著作権上の保護を受けています。著作権者
および出版権者の文書による承諾を得ずに本書およびCD-ROMの内容の一部およ
び全部を無断で複製複製することは禁じられています。

ISBN4-89563-832-4 C0055

Warning: All Rights Reserved. Unauthorized duplication is violation of applicable laws.
Manufacturing & Copyright © force co., ltd/IPA (Information Technology Promotion Agency, Japan) © 1996 Japan © Force

CD-ROM for Hybrid
GATE1-6205-A



A

the
GATE I
バーチャルカントリー「ムー」
—インターネット上の架空国家—

Warning: All Rights Reserved. Unauthorized duplication is violation of applicable laws.
Manufacturing & Copyright © force co., ltd/IPA (Information Technology Promotion Agency, Japan) © 1996 Japan © Force

CD-ROM for Hybrid
GATE1-6205-B



B

the
GATE I
バーチャルカントリー「ムー」
—インターネット上の架空国家—